

九州のキリスト教シリーズⅣ

# 平戸松浦家の名宝と 禁教政策

— 投影された大航海時代とその果てに —





九州のキリスト教シリーズIV

# 平戸松浦家の名宝と 禁教政策

— 投影された大航海時代とその果てに —



一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

西南学院大学博物館

西南学院大学

## ごあいさつ

本学博物館では開館以来、日本はもとより、西欧、非西欧圏のキリスト教に関する調査、研究を行なっております。年に2回行なっている特別展事業においても、関係する各機関のご協力を賜りまして、着実な成果を挙げてきております。また、本学学生、関係者はもとより、地域住民の方のご来館も年々増えてきており、大学博物館の取り組みも着実に浸透してきているように感じております。

本特別展「港市平戸松浦家の名宝と禁教政策－大航海時代とその果てに」は、いち早く西洋諸国と海外交流を行なっていた平戸にスポットをあて、平戸藩主松浦家が海外交易を通じて蓄積してきた名宝を紹介するとともに、平戸藩で展開されたキリシタン禁教政策の実像に迫るものです。16世紀以降、日本は西洋諸国と交易を始めます。これにあわせて、キリスト教の布教も行なわれました。フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸して以降、宣教師により各地で布教がおこなわれ、平戸はザビエル自らが訪れたところでした。

こうしたキリスト教とも関係の深い平戸の歴史や文化を藩主松浦家の資料から見出すことは、鎖国により閉ざされた時代という当時の日本の印象を一変させることにつながります。また、鎖国体制確立以前の海外交流の拠点と貿易によって富を蓄積していった大名家の姿も詳らかになります。これまで取り上げてきた九州のキリスト教シリーズとは異なる地域性を紹介できるものと思っております。

本特別展開催にあたって、公益財団法人松浦史料博物館の全面的なご協力を賜り、また、船の科学館・海と船の博物館ネットワークから支援を得まして開催することができました。末筆ではございますが、ご協力賜りました関係各位に対しまして衷心より御礼申し上げます。

2013年6月8日

西南学院大学博物館

館長

宮崎克則

## 開催概要

海外交流を通じて発展してきた“港市”平戸。1550年にポルトガル船が入港して以降、平戸には南蛮船が往来し、市中にはオランダ、イギリス商館が設けられた。平戸藩主松浦家は、南蛮貿易を積極的に展開して富を蓄えていき、これにあわせて、平戸には新しい文化、思想も根付くことになった。

鎖国体制が確立する移行期から、貿易の拠点が長崎に移されると、平戸を取り巻く環境も変化していく。しかし一度、萌芽した異国への情趣はなかなか消えることはなかった。平戸藩主松浦家にはその傾向が強く残り、蘭癖大名とも称される松浦静山の動きはこれを如実にあらわしている。

他方、禁教政策も反映され、伴天連追放令にはじまり、原城攻めへの参加、そして絵踏などキリシタン弾圧が実施されていく。幕府に打ち出された政策が、平戸でも断行されていったのであった。

本特別展は、南蛮船行き交う“開かれた港市”の華やかさと、ここを治めた平戸藩主松浦家の名宝にスポットをあて、ほかの地域にはみられない港市の姿を紹介していく。あわせて、江戸時代の禁教政策をおこなった平戸藩の実相に迫っていく。

| 会 期 | 2013年6月8日(土) ~ 8月3日(土)

| 主 催 | 西南学院大学博物館

| 共 催 | 公益財団法人松浦史料博物館

| 協 力 | 船の科学館・海と船の博物館ネットワーク

| 後 援 | 福岡市・福岡市教育委員会・福岡市文化芸術振興財団

# 目次

ごあいさつ

西南学院大学博物館 館長 宮崎 克則 2

開催概要 3

目次・凡例 4

本編

I. 大航海時代と港市平戸 5

II. 松浦家の名宝と異国趣味 12

III. 禁教とその展開 27

IV. 平戸の海外交流 37

寄稿 平戸松浦家の歴史と伝来する資料

公益財団法人松浦史料博物館 学芸員 久家 孝史 43

松浦静山と踏絵観

西南学院大学博物館 学芸員 安高 啓明 47

出品目録 51

凡例

◎本図録は西南学院大学博物館春季特別展「九州のキリスト教シリーズⅣ 平戸松浦家の名宝と禁教政策—投影された大航海時代とその果てに—」[会期：2013(平成25)年6月8日(土)～8月3日(土)]開催にあたり作成したものである。

◎図版番号は出品目録番号に対応するが展示順番とは必ずしも一致しない。

◎本図録に掲載している写真は各所蔵先の許可なく転載・複写することを認めない。

◎本図録の資料解説および全体編集は安高啓明(本学博物館学芸員)がおこなった。

◎編集補助については、貞清世里(本学博物館臨時職員・本学大学院国際文化研究科博士後期課程)・内島美奈子(本学博物館臨時職員・本学大学院国際文化研究科研究生)・謝婧(本学博物館臨時職員・本学大学院国際文化研究科博士前期課程)・方圓(同上)・山尾彩香(同上)・吉松由希(同上)・下園知弥(同上)・出口智佳子(同上)があたった。なお、翻訳については本学大学院を修了した中松沙織氏のご協力を得た。



## I 大航海時代と港市平戸

1550年、ポルトガル船の平戸来航は、まさに大航海時代のおとずれだった。1553年以降、毎年1～2隻が来航するようになり、平戸には南蛮文化の彩りあふれる町並みが広がった。ポルトガル船が貿易の拠点を経長崎へ移すと、1609年、オランダ船が平戸へ訪れるようになり、市中にオランダ商館が設けられた。1613年にはイギリス商館も設置されるなど、その様相はまさに“開かれた港市”だった。

In 1550, the Portuguese ships arrived in Hirado. It was the beginning of the age of Exploration. After 1553, one or two ships came to Hirado every year and the town was bursting with things that Namban trade brought. After Portuguese government shifted the center of trade from Hirado to Nagasaki in 1609, the Dutch ships began visiting Hirado and the Dutch trading house was built. Also, the British trading house was constructed in 1613. The town became "the open port town".

1550年、在平戸迎来了葡萄牙船，这说明大航海时代的到来。从1553年起，每年有大约1至2艘的南蛮船来到平戸，这也让平戸这座城市充满了南蛮贸易的色彩。葡萄牙船的贸易据点移至长崎以后，1609年，荷兰船来到了平戸，并在此设立商馆。1613年，英国商馆也在平戸建立起来。这一系列的景象让平戸变成了“开放型的港口城市”。





## 1. ポルトガル船模型

松浦史料博物館蔵

1550(天文19)年、王直に誘導されたドワルテ・ダ・ガマの船が平戸に入港してきたことが、平戸とヨーロッパ諸国の交易の始まりである。松浦隆信(道可)は、ポルトガル船の入港を歓迎し、貿易と表裏一体であったキリスト教布教も容認する姿勢をみせた。1557年にはポルトガル政府の官許船も来航するようになり、平戸には京都や堺などの商人が集まり、“西の都”と呼ばれるほどの賑わいをみせた。

Model of the Portuguese ship

葡萄牙船模型

1550年、受到明朝商人王直の邀请、葡萄牙冒险家Dowarute da Gama的船来到了平户，开启了平户和欧洲各国的贸易往来。葡萄牙船的到来受到了松浦隆信(道可)的欢迎，为了积极地推进贸易，松浦隆信对基督教采取了相当宽松的政策。1557年，得到葡萄牙政府官方许可的船也来到了平户，使得平户聚集了从京都以及大阪来的商人，空前繁荣的平户被当时的人们称为“西方的首都”。





## 2. 八幡船船幟

16世紀

長崎県指定有形文化財

松浦史料博物館蔵

松浦隆信の時代に使用された船幟<sup>ふなのぼり</sup>。幟の中央に記される「八幡大菩薩<sup>はちまんたいほさつ</sup>」は武神、右側の「春日大明神」は神仏習合の神である。また、左側の「志自岐大菩薩」の神号は、松浦家の守護神であり、これを祀る志々岐神社は平戸島内で最も古い神社である。平戸島の南端にある志々岐山にあり、航路の主要な目印とされた。

Japanese banner of Bahansen

八幡船的旗帜

松浦隆信时代使用过的旗帜

### 3. 松浦隆信(道可)肖像

江戸時代  
松浦史料博物館蔵

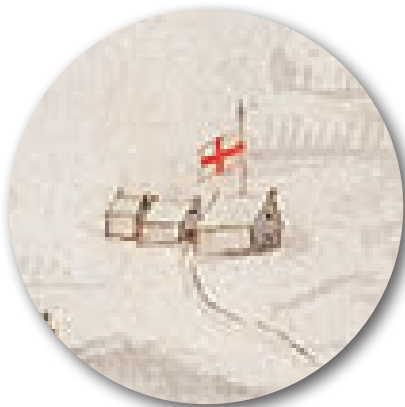
松浦隆信(道可：1529～1599)は1541(天文10)年に25代当主となり、ポルトガル船の平戸来航などを受けて、積極的に海外交易を推進した人物である。隆信は対外交渉を通じての経済的発展、銃器輸入による軍備強化を目指し、平戸藩領の基礎を築いた。フランシスコ・ザビエルが平戸を訪れた時の領主で、彼らを歓待し、貿易にあわせてキリスト教布教も認めた。しかし、これにより松浦家内部において仏教勢力らとキリスト教信者となった家臣たちの間で衝突が生じる事態となった。1561(永禄4)年に発生した宮の前騒動(平戸人とポルトガル人の刃傷事件)が起こり、ポルトガル船の来航は途絶えるが、秀吉の九州征伐に出陣して旧領安堵された。

#### Portrait of MATSURA Takanobu

#### 松浦隆信(道可)的肖像

1541年、年仅13歳の松浦隆信成为藩主，葡萄牙船的到来使得他开始积极地推进海外贸易。隆信通过贸易发展了平户的经济，还通过进口枪械强化了军事力量，给平户藩的发展打下了基础。然而，随着贸易的发展，使得基督教的传教合法化。在松浦家族的内部，佛教势力和基督教势力的家臣之间的分歧与矛盾也日趋明显。

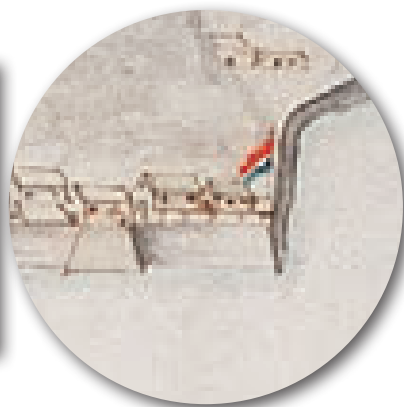




イギリス商館



御館



オランダ商館

#### 4. 平戸図(写)

1621年写  
平戸市教育委員会蔵

1621年の港市平戸を描いたもので、上部に「FIRANDO」(平戸)と記されている。沿岸部中央にはオランダ商館を示すオランダ国旗、内陸部にはイギリス国旗が掲げられ、それぞれの商館の場所が明示される。この2年後にイギリス商館が閉鎖されることになるので、平戸市中の繁華な時代を描いたものになろう。中央には平戸藩庁である「御館」があり、その対岸には「日の岳城」(平戸城)も描いている。

#### Map of Hirado

平戸图(摹本)

这幅图画于1621年，上部记载着“FIRANDO”的文字。沿岸的中央部是荷兰馆，悬挂着荷兰的国旗。内陆地方挂着英国国旗的是英国商馆。但两年后英国商馆就被关闭。中央的“御馆”是平戸藩厅的所在地，它的对岸是平戸城。

## 5. 松東院・正宗院・清浄院肖像

1653年

長崎県指定有形文化財

画・狩野安信 賛・江月宗玩和尚

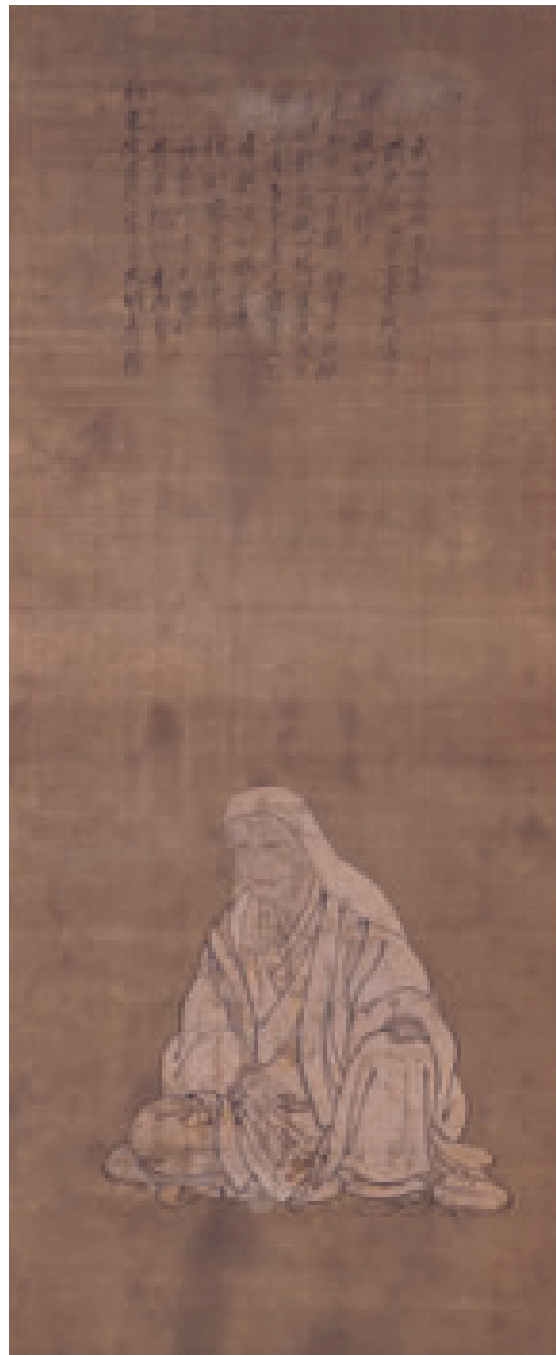
松浦史料博物館蔵

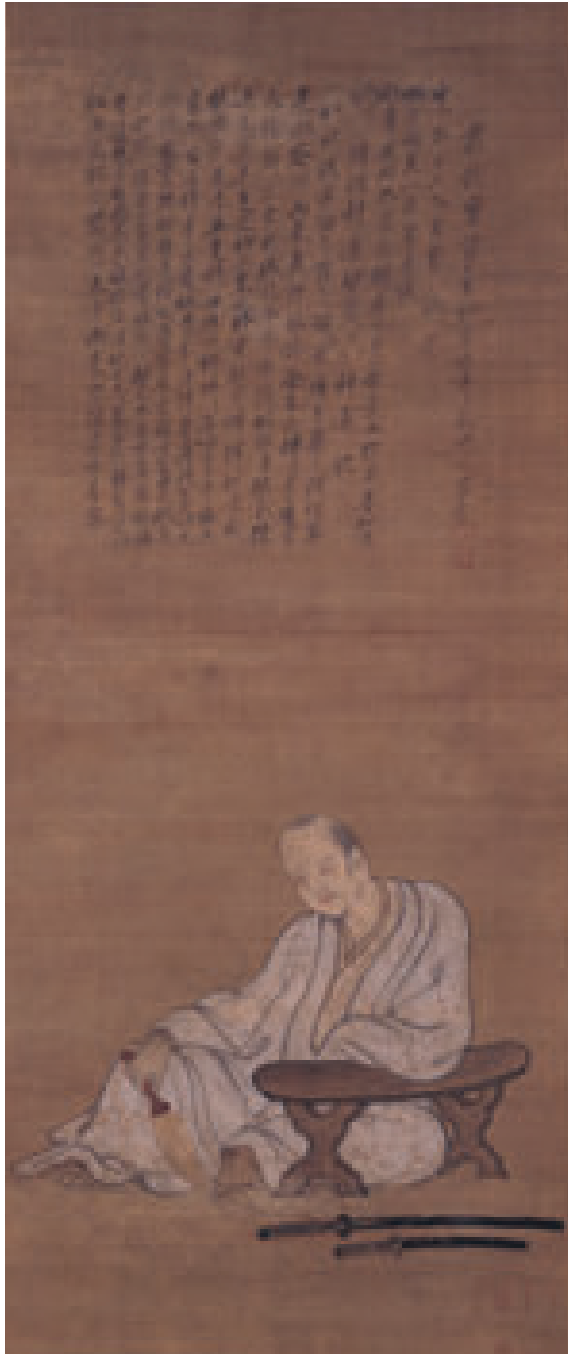
松東院(1571?-1656)は、松浦隆信(宗陽)の母で、キリシタン大名大村純忠の五女である。自身もキリシタン(洗礼名：メンシア)で、キリスト教禁制下に息子隆信に洗礼を受けさせるなどした。正宗院とは、松浦隆信(宗陽：1591-1637)であり、平戸市中にオランダ・イギリス商館を設置する積極外交をおこなった人物である。しかし、幕命をうけて長崎の教会堂を破壊し、領内でも禁教令を強化する政策を実施した。清浄院(コト)は、父・松浦久信(平戸藩2代藩主・1571-1602)と松東院(メンシア)の第二女として誕生した人物である。なお、本資料は江戸後期までは正宗寺が所蔵していた。

### Portraits of Shotoin, Shujuin and Seijoin

#### 松东院・正宗院・清浄院肖像

由狩野安信所画、松东院是指松浦隆信(宗陽)的母亲，正宗院是指松浦隆信(宗陽1591-1637)，清浄院是松浦久信(平戸藩第2代藩主1571-1637)和松东院的第二个女儿。



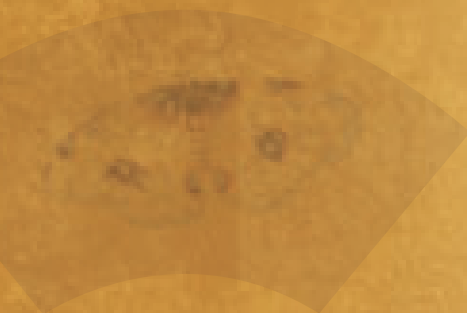
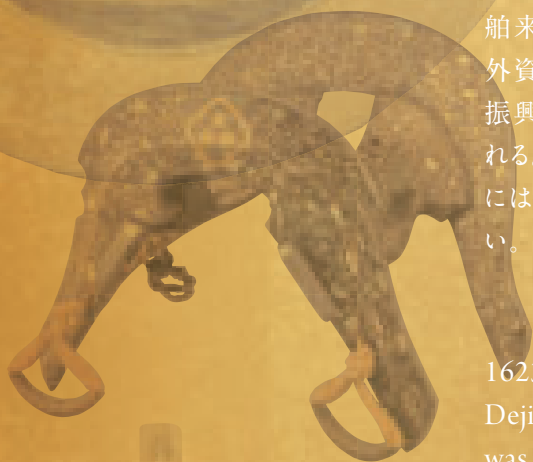


## Ⅱ 松浦家の名宝と異国趣味

1623年にイギリス商館の閉鎖、1641年にオランダ商館の出島移転まで、平戸を西洋の文物が行き交った。平戸藩主松浦家はその面影をしのぼせる舶来品を収集し、鎖国下においても長崎経由で海外資料を購入していた。特に藩主松浦静山は文武振興とともに、あらゆるものを収集した人物として知られる。外交にも長けた松浦家が収集した名宝のなかには、異国への憧れや関心の高さを示すものが多い。

The British trading house closed in 1623 and the Dutch trading house moved to Dejima in 1641. Before that, the city of Hirado was filled with occidental products. The Matsuura family who ruled Hirado collected foreign goods. They purchased foreign materials via Nagasaki even under the national seclusion. The lord of the Hirado, Matsura Seizan, particularly gathered all kinds of things for the advancement of literary and military arts. Among the collections, there are a lot of things indicating the high interest and the admiration for a foreign country.

在1623年英国商馆封锁和1641年荷兰商馆移至出岛之前，平户这座城市一直受到西洋文化的影响。虽然当时日本推行锁国政策，但是统治平户的松浦家族通过长崎购入了大量的海外资料。特别是藩主松浦静山，他在文武振兴的同时，收集了大量的资料。从这些松浦家族的收藏品中可以看出松浦家对异国的向往。





## 6. 受胎告知図柄菓子鉢

17世紀  
松浦史料博物館蔵

オランダで陶業が盛んな都市であるデルフトで焼成されたもの。17世紀初期～中期のデルフト焼きの特徴である、柔らかな胎土を白色不透明の錫釉で覆い、その上に画題を青のみで描く手法がとられている。主題は受胎告知で大天使ガブリエル(左)がマリア(右)に救い主の母となることを継いでいる場面である。受胎告知は時代や地域によって描写が異なるが、本主題では聖霊である鳩は描かれていない。禁教下においても、キリスト教を画題とした焼き物を所持しているなど松浦家のコレクションの広さを知ることができる。

Bowl for dessert (Delft, "the Annunciation")

点心盒子(代尔夫特陶器)

这是出自于荷兰代尔夫特的作品。用白色不透明的釉包裹着柔软的胎土，上面的画仅采用了青色，这种手法被认为是17世纪初期至中期代尔夫特瓷器的典型手法。画的主题是怀孕告知。



## 7. オランダ焼西瓜皿

江戸時代  
松浦史料博物館蔵

オランダで焼成された皿で、着彩も鮮やかに仕上がっている。異国趣味を持った松浦家は、海外からの焼き物なども収集していた。本資料も長崎貿易を通じて入手したもののひとつである。

Watermelon-shaped plate of Netherlands ware

荷兰烧制的西瓜器皿

荷兰烧制的器皿色彩鲜艳。这说明具有异国情调的松浦家族的收藏品中还包括了海外的瓷器。

## 8. 伊良保茶碗

江戸時代前期  
松浦史料博物館蔵

朝鮮茶碗の一種で、釜山に近い昌基の窯で焼かれていた江戸時代前期の作品。鉄分の多い砂混じりの粗い土に釉薬がかかり表面が焦げて“いらいら”（とげとげ）するので伊良保と称した。また全体に黄味を帯びているので「黄伊良保」とも呼ばれる。この茶碗の蓋書きには次のようにある。

「たつる湯は いまたいらほの あら茶わん  
た、みるのみの 宝なりけり 松浦家永什  
二箱之内 天保十一庚子年 熙書」

「熙」とは松浦熙(1791～1867)で、天保11(1840)年は藩主在任中のときである。まさに松浦家藩主も認める名宝であることがわかる。



Japanese Teacup IRAHO

This is a kind of the Korean teacup. The name of this teacup "IRAHO" originated from its uneven surface.

伊良保茶碗

朝鮮茶碗の一種、是出自于釜山附近昌基窑的作品。





## 9. 資始具足

長崎県指定有形文化財  
江戸時代前期

松浦鎮信が作らせた当世具足を静山が修理して愛用したもの。「資始」の文字は『易経本義』上象伝「大哉乾元万物资始乃统天」からとっている。胴の内側には儒学者林述斎の説明文がある。兜は奇抜な犀の頭の形で鉄黒漆塗、茶糸緞の鍔をつけ、後立には白熊をつけた斬新な意匠となっている一両である。

Armor of land lord

资始铠甲

本资料最初是松浦镇信命令制作的，后来静山将其修理后一直使用。“资始”二字源自于《易经本义》中的“大哉乾元万物资始乃统天”。护甲的内侧还有儒家学者林述斋的说明文。



## 10. 源氏物語絵図屏風

江戸時代前期  
松浦史料博物館蔵

平安時代中期に、紫式部が記した長編物語『源氏物語』（現存54帖）を主題とした絵画には、時代・画者によって創意された場面の描写が様々ある。六曲一双からなる本資料は、源氏物語のなかから「桐壺」（第1帖）、「花宴」（第8帖）、「落標」（第14帖）の場面が描かれ、楽器を奏でたり、娯楽に興じる人びとの様子をよく描いている。まさに“静”と“動”がこの一枚に凝縮されている。

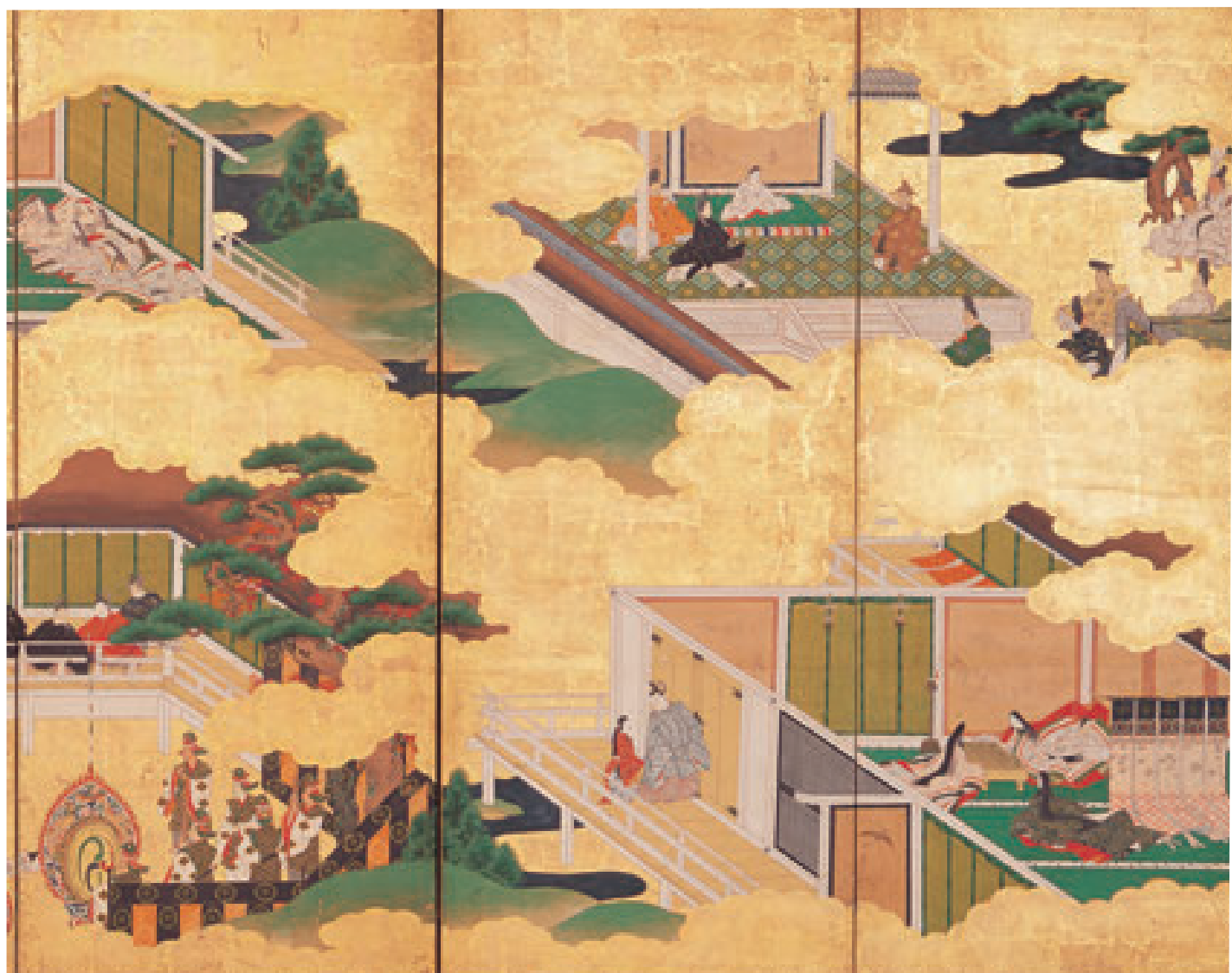
Folding screen with scenes from *the Tale of Genji*

源氏物語屏風

以源氏物語为主题的绘画



桐壺



花宴



滯標



## 11. 青貝地三星紋鞍

江戸時代  
松浦史料博物館蔵

松浦静山(1760～1841)が使用した鞍で、前輪・後輪の表側に起伏(海・磯)を設け、海を広く、磯を狭く造っている。前輪と後輪の外側中央部に菱形と松浦家家紋三星を金塗りで施した華やかな鞍に仕上がっている。また、青貝地であることが煌びやかさを一層増している。

Saddle decorated with three stars crest on blue shell ground

青貝地三星紋鞍

松浦静山使用过的马鞍，前轮和后轮的中央部画有松浦家的家徽-三星纹。



## 12. 三星梶葉入糸卷太刀拵

江戸時代  
松浦史料博物館蔵

刀の柄の部分には松浦家の家紋である三星と梶葉が施されている。また下緒は豹柄となっている。松浦家の意匠をちりばめた一振となっている。

Sword decorated with crest of three stars and leaves

三星构树叶花纹的长刀

刀柄部分的图案是松浦家的家徽-三星纹和构树叶。



## 13. 青貝地梶葉紋馬柄杓

江戸時代後期  
松浦史料博物館蔵

松浦静山が使用した馬柄杓で、馬に水を与えるための道具ではあるものの青貝地仕立てで華やかである。散りばめられた貝片のなかに松浦家の家紋の梶葉を大きく平時絵で施してあり、松浦家の柄杓にふさわしい。

Horse Ladle decorated with leaves on blue shell ground

青贝地构树纹长柄杓

松浦静山使用个松浦静山使用过的长柄杓，是用来给马喂水的道具。



#### 14. 梶葉紋散菊唐草蒔絵十二手箱

江戸時代  
松浦史料博物館蔵

松浦誠信(1712～1779)の娘である寿免姫の形見。化粧用具が納められたもので、婚礼調度品である。手箱、内容品ともに黒塗りに金の平蒔絵及び金銀の金貝で梶葉紋と唐草を描き、内側は梨地に仕上っている。さらに手箱蓋裏には吉祥文様を金銀の高蒔絵に併せて、付描、蒔き暈し、切金など繊細な技法を駆使している。大名家の婚礼調度品を反映して、贅を尽くしたものとなっている。

Twelve small boxes of Japanese lacquer with leaves and arabesques

构树叶纹散菊蔓藤式花纹的手箱

松浦诚信的女儿寿免姫的遗物，是用来收纳化妆用品和婚礼调度品的箱子。上面绘有构树的枝叶和蔓藤的图案。



## 15. 木琴

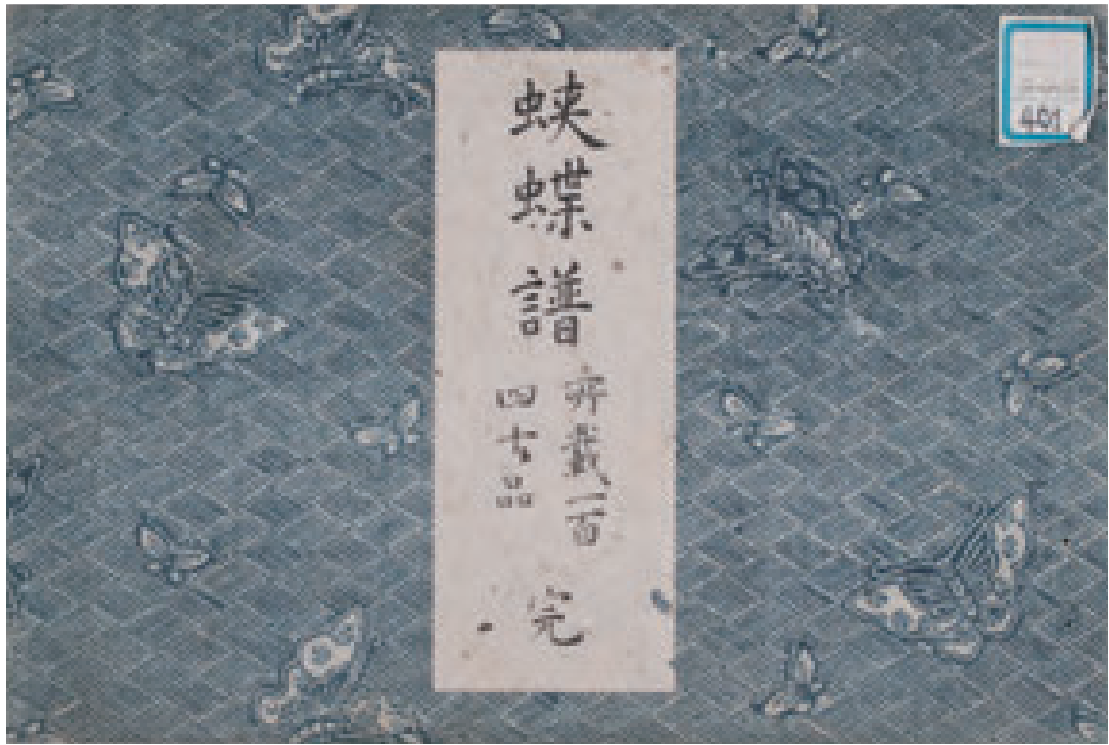
江戸時代  
松浦史料博物館蔵

木琴はアメリカではマリンバ、ヨーロッパではシロフォンとして音楽史のなかで登場する。江戸期の海外事情を考えれば、シロフォンということになる。これは松浦<sup>のび</sup>熙(1791～1867)が入手したものとされ木片をたたいて奏でる音楽を松浦家も興じていたのであろうか。木琴の上部には「尺」・「三」・「六」など譜号がみられる。

Xylophone

木琴

木琴属于西洋乐器，这反映了松浦家的异国风味。



## 16. 蛺蝶譜

江戸時代  
松浦史料博物館蔵

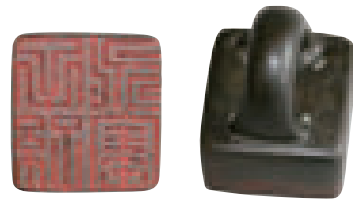
江戸浅草に住む十人組の中島数馬が描いたものを模写して、楽歳堂に収蔵したもの。楽歳堂とは松浦静山が創設した文庫で、ここには和書・漢籍・洋書を集め、平戸の楽歳堂に2,592部、17,592冊、江戸における平戸藩の文庫に2,270部、16,147冊が収められた。まさに“学芸大名”こと静山らしく、集められた書籍類は博物図譜として貴重である。静山の生きた18世紀半～19世紀半は蘭学や博物学が盛んになった時代であり、“博物学の世紀”を反映している資料ともいえる。本資料は140種の蝶を色鮮やかに収めている。

A Butterfly Book

蝴蝶谱

这是临摹的中岛数马的作品，收藏在乐岁堂。乐岁堂是松浦静山创建的文库。





## 17. 子孫永宝印

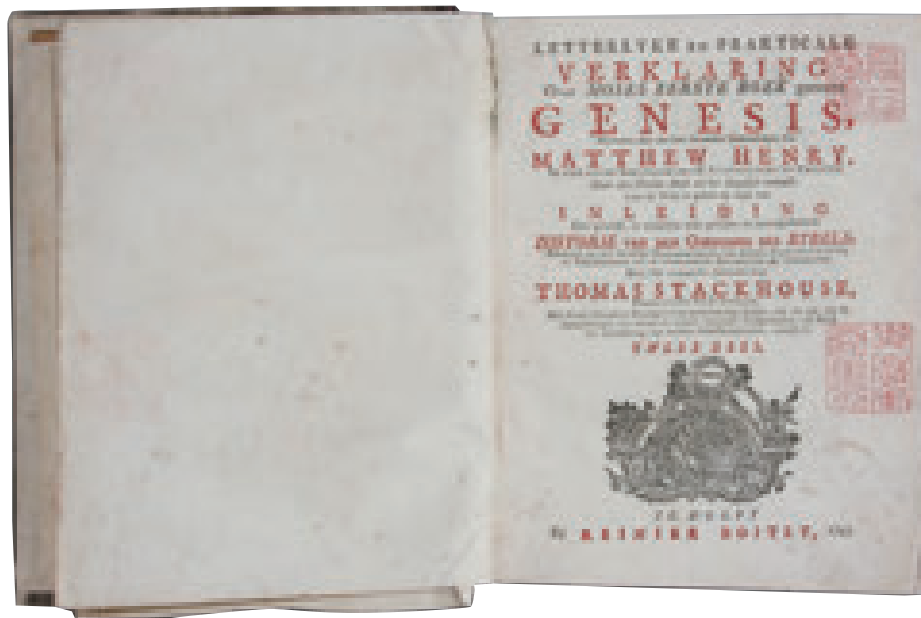
江戸時代  
松浦史料博物館蔵

松浦静山は貴重な書籍の表紙に「子孫永寶」を押印した。楽歳堂に収蔵された書籍類の多くにはこの押印がみられる。いわば、松浦家(静山)コレクションを証明する印章ともいえる。

Seal of "For Descendants to Forever Cherish"

子孫永宝印

松浦静山在貴重的書籍上都会印上“子孫永寶”的印章。乐岁堂里面收集的书多被印上了这个印章。换句话说，这个印章是静山收藏品的象征。



18. 『字義的・実践的聖書釈義・I 創世記』  
 『字義的・実践的聖書釈義・II 創世記』

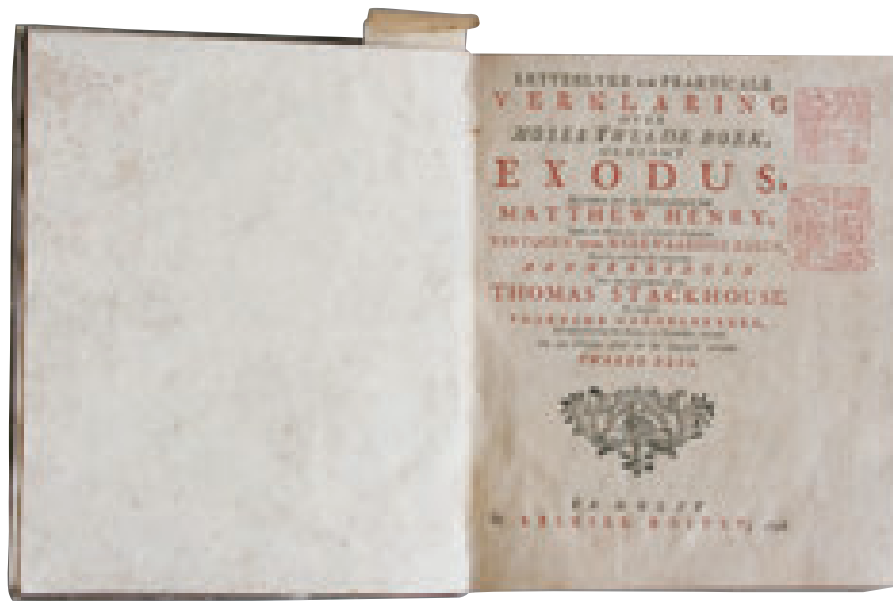
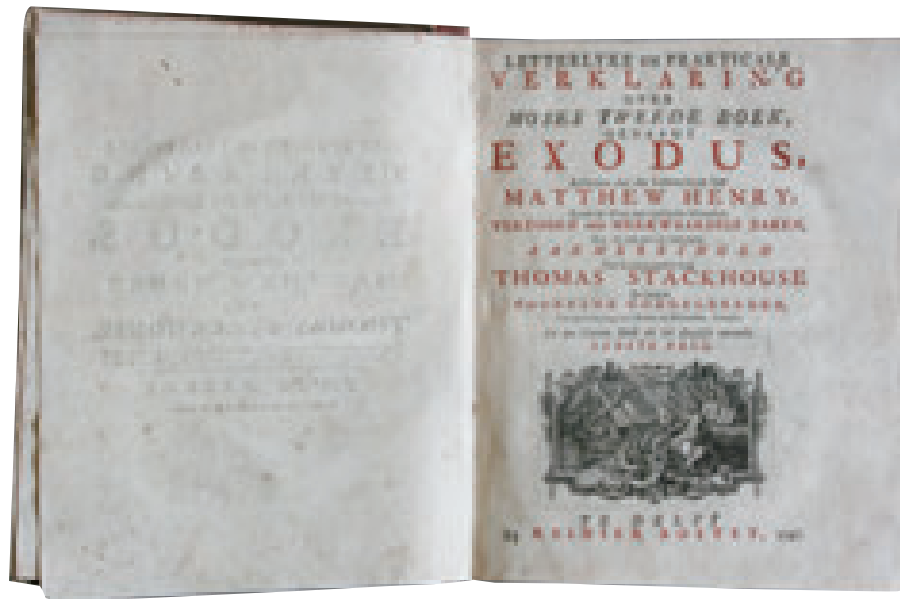
1741年／1743年  
 松浦静山収集、平戸藩楽蔵堂旧蔵図書、オランダデルフトにて出版  
 松浦史料博物館蔵

1741年、マシュー・ヘンリー著の聖書で、松浦静山が収集したものである。静山自身が聖書をキリスト教に関する書籍と理解したうえで入手している。創世記とは旧約聖書巻頭の書で、モーセ五書の第一書である。内容は三部構成で、人類と世界の始源から、イスラエルの民の起源を伝える物語としてまとめられている。なお、本資料には「平戸藩蔵書」・「楽斎堂図書記」の印がおされている。

Bible: Book of Genesis I, M. Henry version  
 (In 1741, Matthew Henry interpreted and MATSURA Seizan collected it.)  
 Bible: Book of Genesis II, M. Henry version

《字义的・实践的圣经释义・I 创世纪》／《字义的・实践的圣经释义・II 创世纪》

1741年Matthew Henry著の圣经，松浦静山の收藏品之一。创世纪是旧约圣经卷头的记述，是摩西五经中的第一经。它的内容由三部分构成，讲述了人类和世界的起源以及以色列人的起源。



19. 『字義的・実践的聖書釈義・Ⅲ出エジプト記上』  
『字義的・実践的聖書釈義・Ⅳ出エジプト記下』

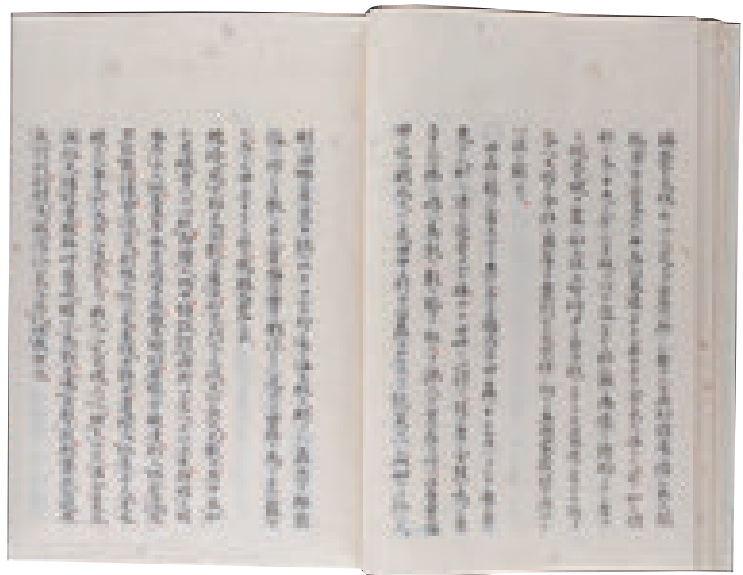
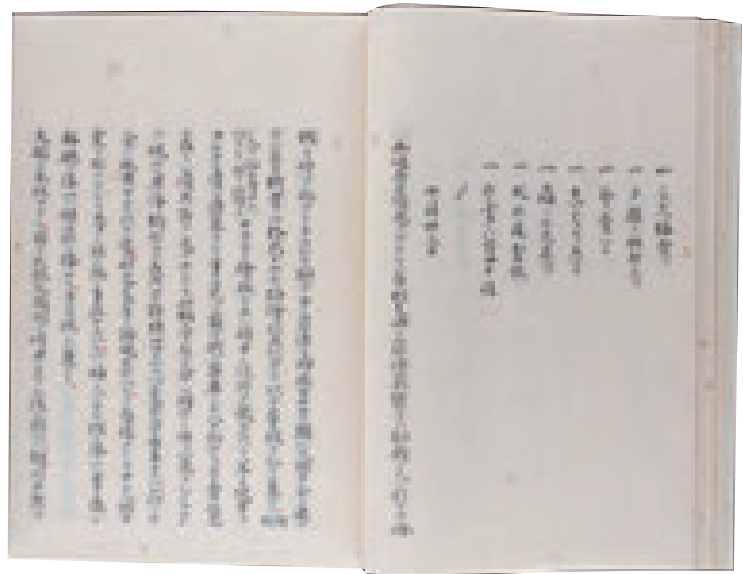
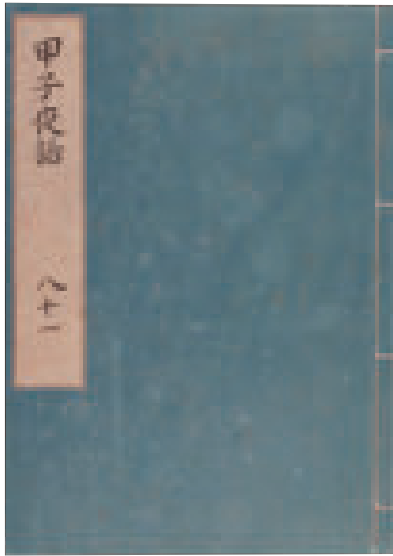
1746年／1748年  
松浦静山収集、平戸藩楽蔵堂旧蔵図書、オランダデルフトにて出版  
松浦史料博物館蔵

出エジプト記はモーセ五書の第二書。三部構成で、第一部はエジプトで奴隷にされたイスラエル民がエジプトを脱出し、二部では荒野の旅、三部ではシナイ山における神と民の間の契約締結と律法を収める。奴隷からの解放の伝承は社会的弱者を保護する社会倫理や社会法の基礎となり、イスラエルの自己理解の原点となった。

Bible:Book of Exodus I, M. Henry version  
Bible:Book of Exodus II, M. Henry version

《字义的・实践的圣经释义・Ⅲ出埃及记上》／《字义的・实践的圣经释义・Ⅳ出埃及记下》

松浦静山の收藏品之一。出埃及记是摩西五经中的第二经。由三部分构成，第一部分讲的是以色列人从埃及人的奴役中逃出。第二部分是讲荒野的旅程。第三部分讲的是在西奈山神与人缔结了契约。



## 20. 甲子夜話

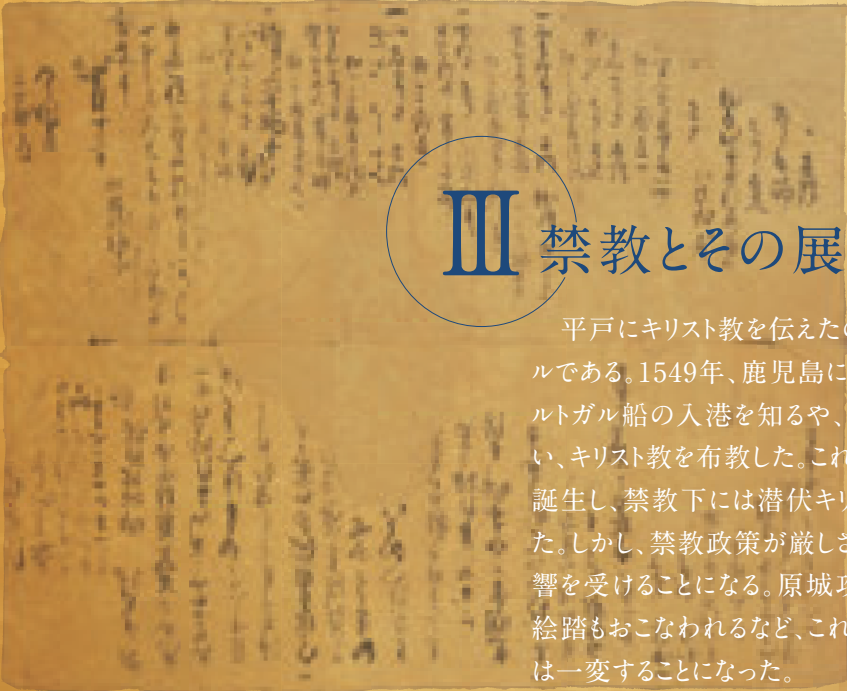
1821～1841年  
 長崎県指定有形文化財  
 松浦史料博物館蔵

甲子夜話は松浦静山が隠居して江戸本所に住んでいた1821(文政4)年11月17日甲子の夜に林述斎の勧めによって起稿し、死去する1841(天保12)年まで書き続けられた。正編100巻、続編100巻、三編78巻の計278巻より成る。内容は将軍家、大名諸家にまつわる逸話、当時の自然現象や社会風俗、人物観、法制、宗教などと広範囲におよび、大塩平八郎の乱やシーボルト事件の記載もある。また、幕府の禁教政策である絵踏のこともあり、平戸藩では毎年、長崎奉行所で踏絵を借りていたことが記されている。本図録掲載は「十月廿三日」の絵版の箇所である。

Essay by MATSURA Seizan


### 甲子夜話

甲子夜話は松浦静山隠居の那年(1821年)的甲子夜开始起草的。它记录了松浦静山从隐居开始至到他离世,共20年的自然现象以及社会风俗等等。这其中包括大盐平八郎之乱和西博尔德事件,还记载了幕府禁教政策中的踩圣像制度。



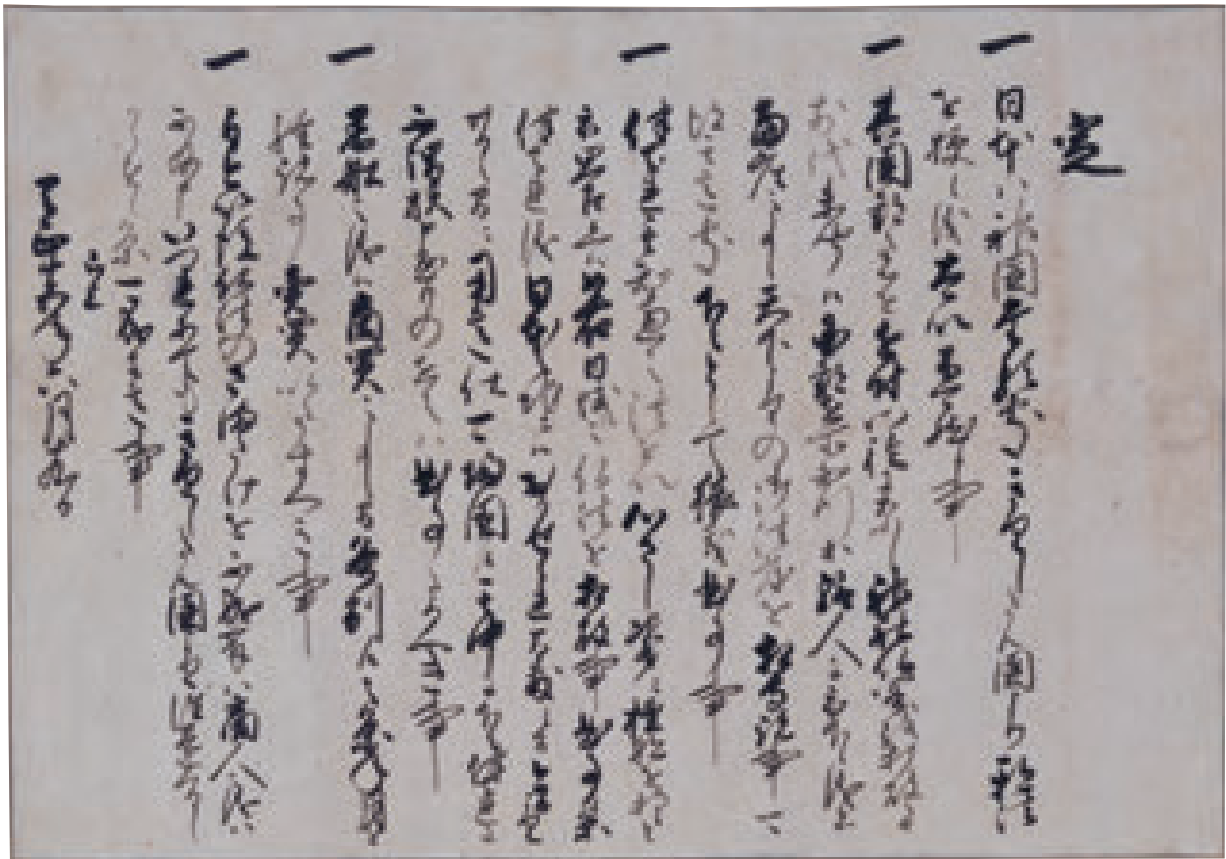
### III 禁教とその展開

平戸にキリスト教を伝えたのはフランシスコ・ザビエルである。1549年、鹿児島に上陸したザビエルは、ポルトガル船の入港を知るや、その翌年に平戸に向かい、キリスト教を布教した。これにより多くのキリシタンが誕生し、禁教下には潜伏キリシタンとして信仰を守った。しかし、禁教政策が厳しさを増すと、平戸もその影響を受けることになる。原城攻めへの参加はもとより、絵踏もおこなわれるなど、これまでの港市平戸の姿とは一変することになった。



Christianity was first introduced to Hirado by Francis Xavier. He arrived in Kagoshima in 1549. In the next year, he found out that the Portuguese ships came to Hirado, so he also moved there and started missionary work. Many people converted to Christianity and they kept their faith under the prohibition of Christianity. However, as the Edo bakufu tightened the ban on Christianity, it became difficult to keep their faith in Hirado, too. The government required them to participate in the Siege of Hara Castle, to enforce fumie, and to change a city of Hirado with an exotic atmosphere completely.

把基督教传到平户的是方济各·沙忽略。他于1549年在鹿児島登陆，第二年前往平户传播基督教。于是在这里很多基督教徒诞生了，并且即使是在禁教政策下，也有许多的信徒秘密地信仰基督教。随着禁教政策变得越来越严格，平户也受其影响。不但要参与进攻原城（島原·天草基督教徒起义时攻占的城），还要执行踩圣像的制度。这使平户失去了原有的异国风貌。



定

- 一 日本ハ神国たる處きりしたん国より邪法を授候儀太以不可然候事
- 一 其国郡の者を近付門徒になし神社仏閣を打破らせ前代未聞候、国郡在所知行等給人に被下候儀は當座の事候、天下よりの御法度を相守諸事可得其意處下々として猥義曲事
- 一 伴天連其知恵の法を以心さし次第第二禮那を持候と被思召候へハ如右日域の仏法を相破事曲事候条伴天連儀日本の地ニハおかせられ間敷候間今日より廿日の間ニ用意仕可帰国候、其中に下々伴天連に不謂族申懸もの之ハ曲事たるへき事
- 一 黒船の儀ハ商買の事候間各別候の条年月を経諸事賣買いたすへき事
- 一 自今以後仏法のさまたけを不成輩ハ商人の儀ハ不及申いづれにてもきりしたん国より往還くるしからず候条可成其意事

已上  
天正十五年六月十九日

21. キリシタン禁制定書

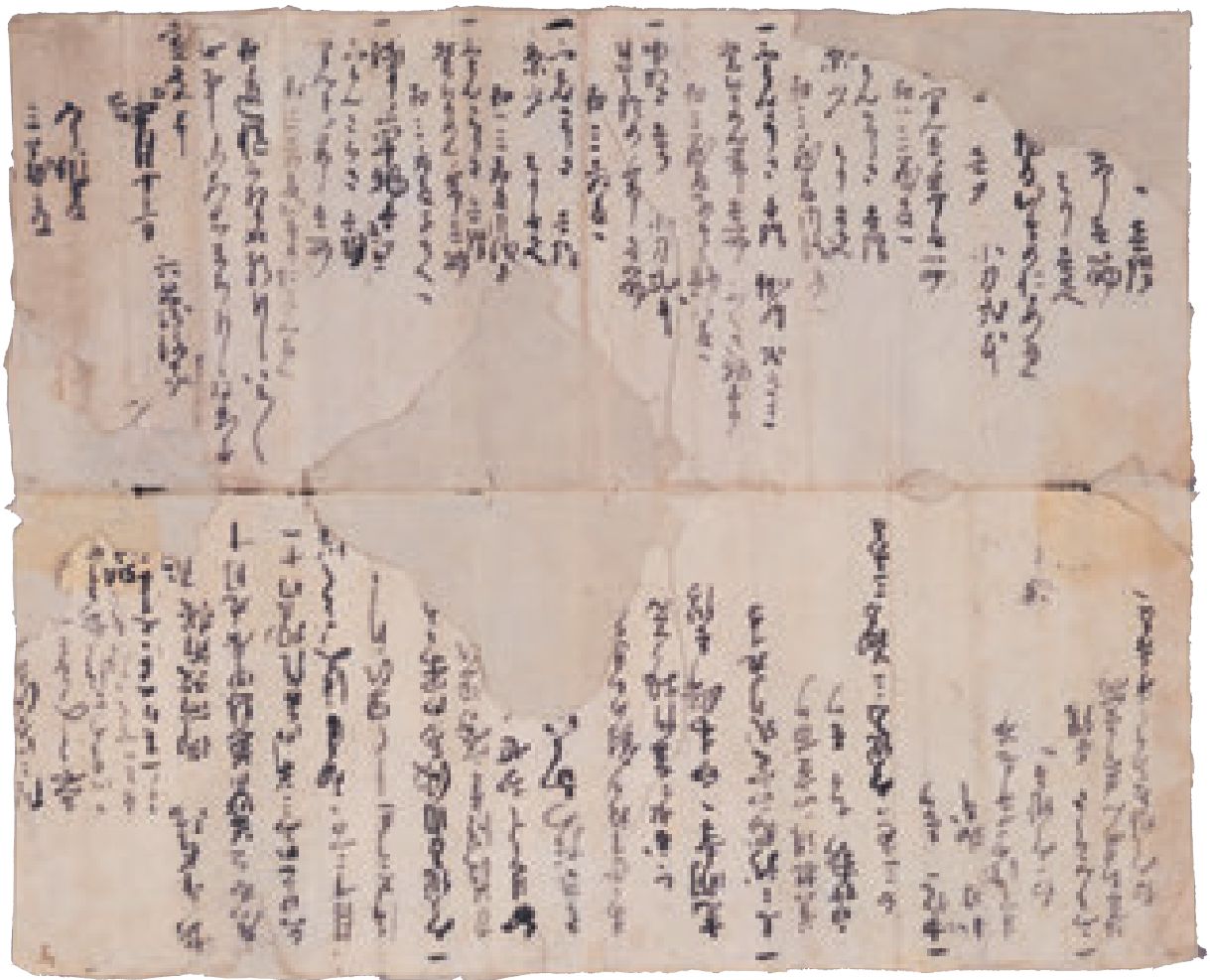
1587(天正15)年  
長崎県指定有形文化財  
松浦史料博物館蔵

豊臣秀吉が1587(天正15)年6月19日付で発布した五ヶ条からなる禁制で、キリシタン宣教師に対する追放令。豊臣秀吉が博多宮崎滞在中に発布し、一ヶ条目で日本は「神国」であり、キリシタンは「邪法」と明示するなど、禁教の色合いの強い内容となっている。この一方で、ポルトガル商船の往来を許容したり、「仏法」を妨げない限り、往来を認めるなどの条項を残している。このような矛盾点がみられながらも、この禁教によってイエズス会の布教活動にも影響を与えることになった。

Document of the law banning Christianity

基督教禁令的定書

1587年6月19日由丰臣秀吉颁布的5条禁令组成，是对传教士的流放令，禁令中定义日本为“神国”，明确指出基督教是邪教。然而，由于丰臣秀吉鼓励贸易，允许葡萄牙商船的往来，这又使这条禁令自身充满了矛盾。



## 22. じゃがたら文

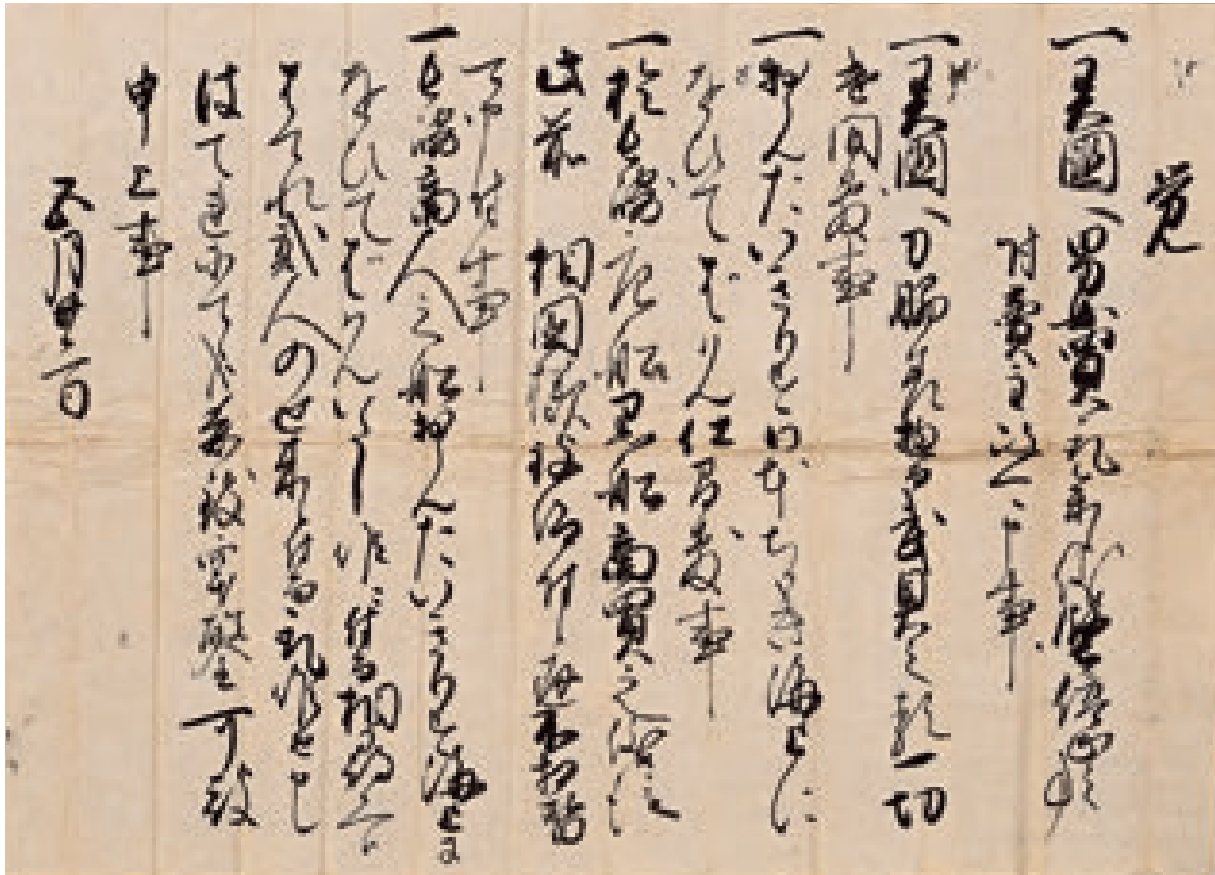
1665(寛文5)年  
松浦史料博物館蔵

じゃがたらは今日のインドネシア国のジャカルタである。幕府の禁教政策によって、混血児たちはジャカルタに追放されてしまう。これにつき、望郷の念をこめて記された手紙がじゃがたら文で、この手紙からは生活の一端や異国の地で暮らす心情も表現されている。なおこの資料は、六兵衛の未亡人であるふくが、寛文五年四月十三日に平戸の旧主谷村五郎作と三蔵に宛てた手紙である。なお、平戸にはこのほかにもコルネリヤ(オランダ商館長ナイエンローデとスリシヤの子)のもの二通、コショロのもの一通が残っている。

A letter from half-Japanese half-Portuguese children who were banished to Jakarta

雅加达腊文

雅加达腊是指印度尼西亚的雅加达。由于幕府的禁教政策，很多混血儿被流放到雅加达。满载着思乡之愁寄往日本的信是用雅加达腊文书写的。这封信描写了寄信人生活和在异国他乡生活的心情。本资料是六兵卫的妻子寄给平戸旧主谷村五郎和同三岁的信。



### 23. 奉書(元和7年覚)

1621(元和7)年  
松浦史料博物館蔵

この奉書には人身売買の禁止、武道具の取引禁止、オランダ、イギリスの日本近海での海賊行為禁止、外国商船の長崎での商売保障、オランダ・イギリス船に拿捕された平山常陳船に乗船していた二人が伴天連かどうかを取り調べることを書かれている。この文書と同じ内容のものが、1621年9月14日に平戸藩主からオランダ・イギリス商館長にも伝達された。

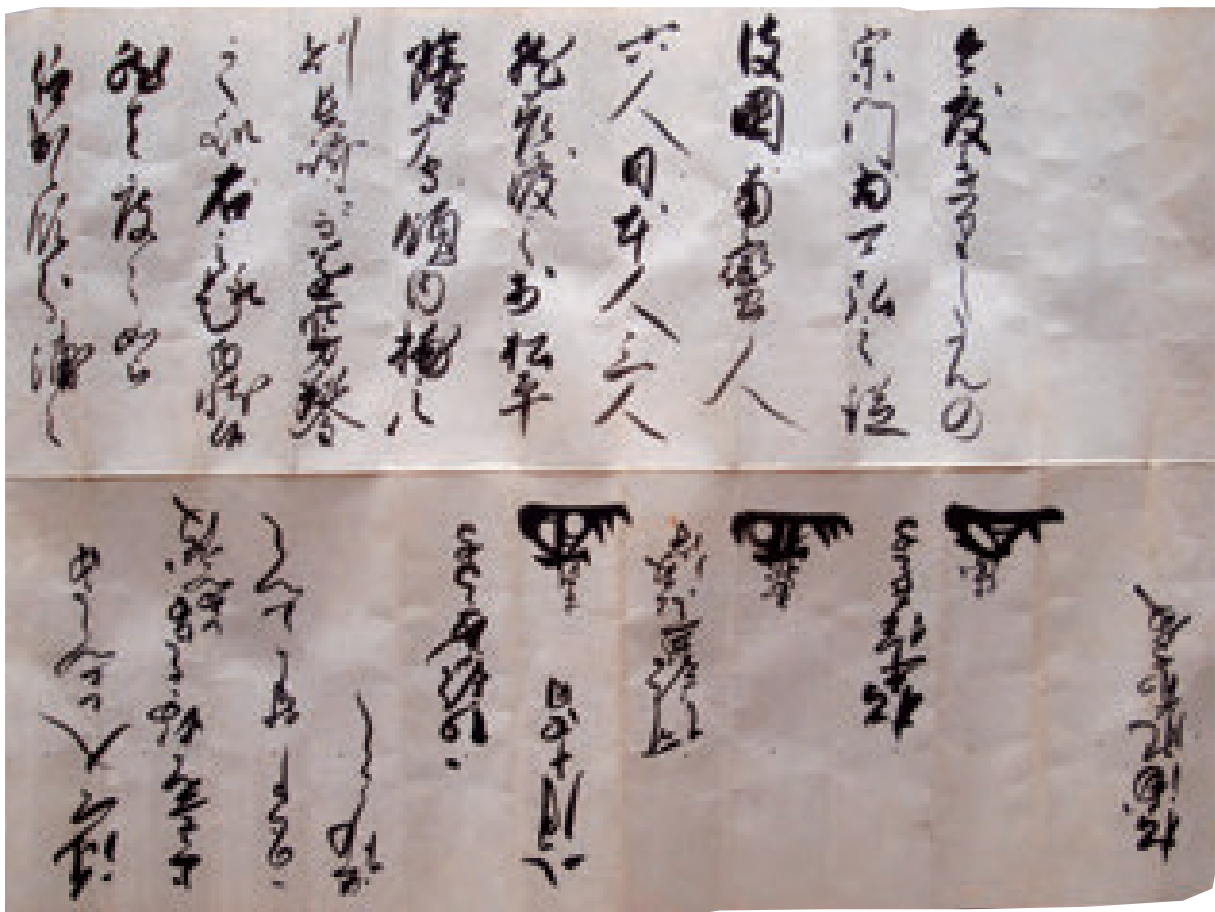
#### Document giving official orders

#### 奉書(元和7年)

本奉書里面記載の内容有：  
①禁止人身买卖。②禁止武器交易。  
③禁止荷兰和英国人在日本近海的海盗行为。  
④保障外国商船在长崎进行贸易。  
⑤调查一下被荷兰・英国船扣留的平山常陈船里的二人是否是传教士。  
1621年9月14日，平户的藩主向荷兰・英国商馆长传达了和以上内容一样的命令。

<p>五月廿二日 申上事</p> <p>一、長崎商人之船おらんだ・いきりす海上に をひてばはんいたし候に付相尋候へハ、 はてれ式人のせ来候付而、取候由申候、 はて連にて候哉、委致穿鑿可被 申上事</p>	<p>可申付事</p> <p>此前 相国様被仰付候通、不相替</p> <p>一、於長崎唐船・黒船商売之儀、從</p> <p>一、おらんだ・いきりす日本ちかき海上に 遣間敷事</p> <p>一、異国へ刀脇差惣而武具之類一切</p> <p>一、異国へ男女買取参儀、堅停止之事 付、売主改可申事</p>
---	--





## 24. 奉書

1641(寛永18)年  
松浦史料博物館蔵

寛永十八年八月十四日付、松浦肥前守鎮信宛の老中連署。キリシタン宗門を広めるために南蛮人六人と日本人三人が松平薩摩守(島津光久)領内で捕えられた。これを受けて平戸領内でも気をつけるようにと伝えられた。まさにキリシタン禁教が水際でも行なわれるようになったことを示している。

### Documents giving official orders

奉書(寛永18年8月14日)

寄給松浦肥前守鎮信の老中(幕府の官職名)联合署名の公文。主要内容是在松平萨摩守の領内抓获了试图传播基督教的南蛮人三名和日本人六名。因此，在平戸の境内也应该提防类似的事情发生。这展示了彻底禁止基督教的决心。



## 25. 原城攻囲陣營並城中図

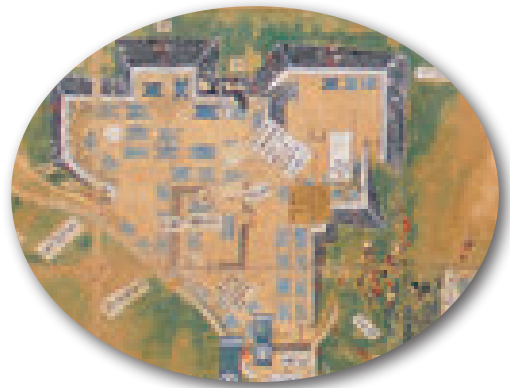
江戸時代前期  
 長崎県指定有形文化財  
 松浦史料博物館蔵

島原・天草一揆も終盤の原城での攻防を描いたもの。一揆鎮圧後に平戸藩主の命により描かれた。絵中には詳細な記載がみられ、幕府軍の本陣には松平伊豆守の陣を中央に配し、黒田など西国諸藩の軍が包囲している。一揆軍の総大将である天草四郎時貞は原城本丸近くにおり、二の丸、三の丸にも陣が張られていることがわかる。また、幕府の要請で参戦したオランダ船も描かれている。

### Encirclement of Hara Castle

#### 原城进攻阵营以及城中图

描绘了島原・天草起义接近尾声时，进攻原城的景象。本资料是起义被镇压以后，平戸藩主下令所画。



原城本丸



オランダ船

## 26. 宮本武蔵像

1827(文政10)年  
松浦史料博物館蔵

原城攻めには剣豪として知られる宮本武蔵も参戦していた。宮本武蔵が有馬直純に宛てた書状には「拙者も石ニあたり、すねたちかね申故(後略)」とその戦闘の様子を記している。平戸には松浦静山のお抱えの相撲取り二代目緋織が広島で二刀流宮本武蔵像を模写させ松浦静山に贈呈したことで伝わった。この資料はさらに家臣の二刀流のものに写させ、静山が賛文を寄せたものである。

Portrait of MIYAMOTO Musashi

宮本武蔵像

宮本武蔵也参与了进攻原城。





エッケ・ホモ

エッケ・ホモ

ロザリオの聖母



ピエタ

ロザ

## 27. 絵版之図

1830(天保元)年  
画・片山尚栄  
松浦史料博物館蔵

平戸藩は長崎奉行所から真鍮踏絵を借用して、絵踏していた。これは平戸藩が長崎奉行所から借用した真鍮踏絵を平戸藩御用絵師である片山尚栄が描いたものである。これに収められている種類は「エッケ・ホモ」、「ロザリオの聖母」、「十字架上のキリスト」、「ピエタ」(掲載順)で、真鍮踏絵四種類を全て記している。一番最初に描かれている「エッケ・ホモ」には着彩がほどこされ、これにあわせて詳細な寸法も記している。「感恩齋」の印からも静山が収集したものと思われる。



エッケ・ホモ



リオの聖母

十字架上のキリスト

## Fumie made of wood

### 踩圣像用的图板

踩圣像是日本江户时代，幕府命令被怀疑为天主教徒者用脚踏基督和玛利亚等圣像的一种制度。（在平户领内，踩圣像用的图板是借自于长崎奉行所。本资料是平户的画师片山尚荣照着长崎奉行所的铜制圣像板所画。）

## 28. 類族改定格

江戸時代  
松浦史料博物館蔵

1689(元禄2)年、幕府から「古切支丹」類族帳の作成を命じられる。平戸藩以外は1627(寛永4)年からの類族帳の指示がなされているものの、平戸藩は1597(慶長2)年からの転び類族(以前キリシタンだったもの)の帳面を準備していることが記されている。また、領内で守るべき触を取めるとともに、「宗門押役」と「目付」、「下目付」が二季の宗門改で派遣されていることがわかる。

Document with the name of Christian families

### 类族改定格

1689年、幕府下达了制定“天主教徒”类族帳(记载由天主教改信佛教的人及其子孙的名单)。从1627年开始,不仅要求制定类改族帳,1597年起平戸藩还准备了转类族(以前是天主教徒的人)的名册。从它可以知道在领内必须遵守的条款和派遣“宗門押役”等进行宗教调查的内容。



## 29. 敬考述事

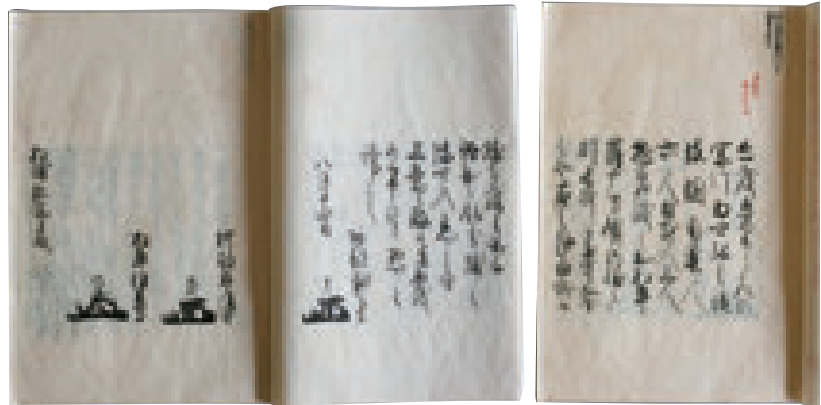
江戸時代  
松浦史料博物館蔵

松浦肥前守宛の奉書の写(本図録31頁の写)。図版掲載箇所は寛永十九年八月十四日付の松浦肥前守宛老中連署である。キリスト教布教を目的としていた南蛮人六人と日本人三人を薩摩で捕らえた。今後も領内の浦々では気をつけて任務にあたることと伝えられている。なお、この奉書は九月一日に平戸に到来している。

Transcrip of documents giving official orders

### 敬考述事

寄給松浦肥前守の奉书抄本。



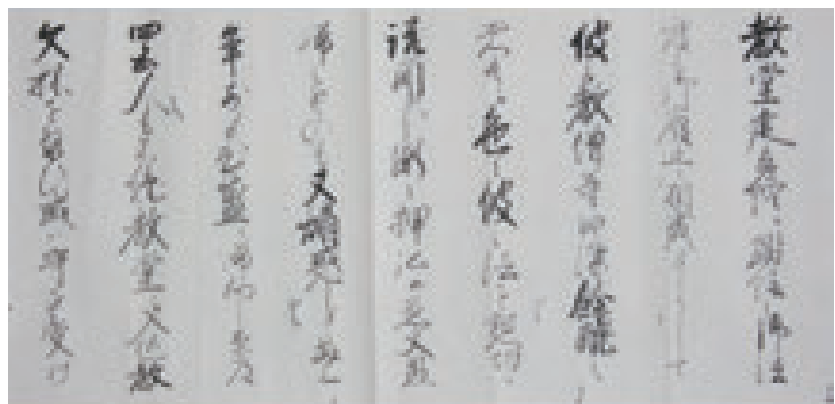
## 30. 長崎裁判所より 浦上切支丹取締りの件


1868(慶応4)年  
松浦史料博物館蔵

慶応四年四月に長崎裁判所から出された浦上村のキリシタンを取り締まった旨を書いた達書き。「島原変動」(島原・天草一揆)の後、「陰密」(ひそかに)に信仰していたことを指摘し、安政五ヶ国条約により設けられた天主堂を頼り、寺院ではなく勝手に埋葬したことを断罪している。

Document of official orders for the ban on Christianity by Nagasaki court

由长崎裁判所(法院)颁布的关于调查和制裁浦上信徒的文书。



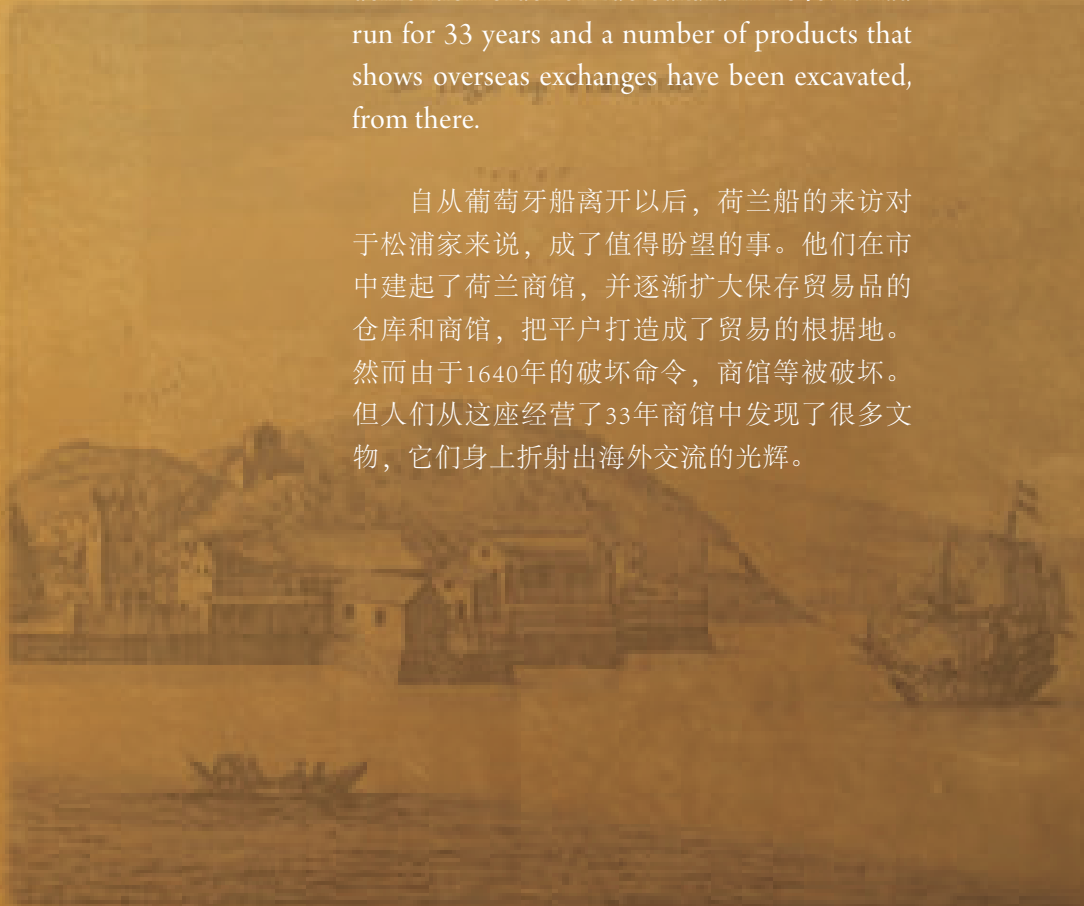


## IV 平戸の海外交流

宮の前騒動（平戸人とポルトガル人の刃傷事件）によりポルトガル船が退去した後、オランダ船の平戸来航は松浦家にとって、待望の出来事だった。市中にオランダ商館を設置することが決まり、当初貿易品を保管した商館・倉庫は、次第に拡大整備されていき、まさに貿易の拠点であった。1640年に破壊命令が出されたことによって取り壊しとなるが、33年間営まれた商館からは海外交流の姿をうつす数多くの文物が出土している。

After Portuguese ships left Japan, the Dutch ships arrived in Hirado and opened trading house. At first, it was built only to keep the trade goods but it gradually expanded and became a center of trade. It was closed under the demolition order of Edo bakufu in 1640. It had run for 33 years and a number of products that shows overseas exchanges have been excavated, from there.

自从葡萄牙船离开以后，荷兰船的来访对于松浦家来说，成了值得盼望的事。他们在市中建起了荷兰商馆，并逐渐扩大保存贸易品的仓库和商馆，把平户打造成了贸易的根据地。然而由于1640年的破坏命令，商馆等被破坏。但人们从这座经营了33年商馆中发现了很文物，它们身上折射出海外交流的光辉。





### 31. モンタヌス著『日本誌』(参考)

1669年に初版がアムステルダムで刊行された。本書のなかには挿絵が含まれ、17世紀の日本の様子が紹介されている。港から望んだ平戸オランダ商館の姿を確認することができ、中央に海岸に沿って立地する商館をすえ、右端には停泊中のオランダ船が描かれている。また、海岸端にはオランダ国旗も掲揚されている様子を収めている。



復元された平戸オランダ商館





32. 平戸オランダ商館跡遺物  
- 中国陶磁器 -

平戸市教育委員会蔵

Chinese ceramic wares excavated  
from Dutch trading house

平戸荷兰商馆文物—中国瓷器





33. 平戸オランダ商館跡遺物  
- ガラス製品 -

平戸市教育委員会蔵

Glassware excavated from Dutch trading house

平戸荷兰商館文物—玻璃制品



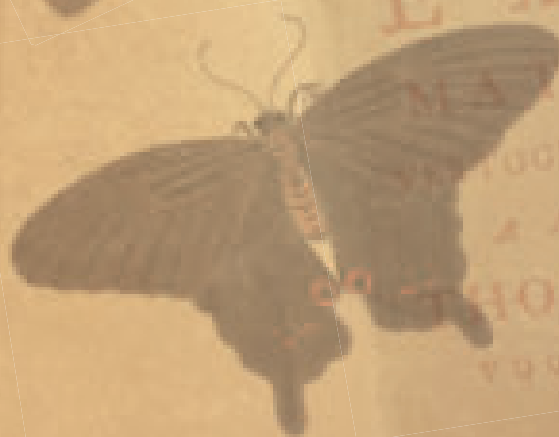
34. 平戸オランダ商館跡遺物  
- 瓦とレンガー -

平戸市教育委員会蔵

Tiles and bricks excavated from Dutch trading house

平戸荷兰商館文物—砖瓦

# 論考



VERBODEN EN PRAKTISCHE  
VERKLARING  
OVER  
MOSES TIJDEDE BOEK,  
ONNAAMT

EXODUS,

MATTHEW HENRY,

VERTOEGEN OM HEBERWAARDIGZAKEN,  
AAN MERKINGEN

THOMAS STACKHOUSE

VOORNAME GODGELEERDEN,  
Theologische en Taal- en Letterkunde

Amsterdam, bij de Boekhandel  
TWIJD'ELLE



TE DEELT  
BOITETI, IN

# 平戸松浦家の歴史と伝来する資料

公益財団法人松浦史料博物館 学芸員  
久家 孝史

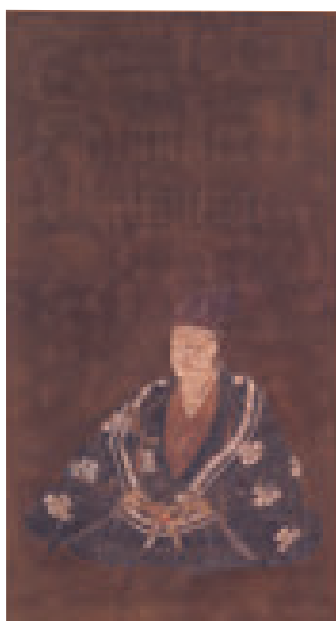
## 1. はじめに

九州北西端に、わずか500mの海峡をへだてて平戸島がある。現在は平戸大橋がかかり陸路でいけるが、平戸は古代から長崎出島にオランダ商館が移されるまで、海外航路の主要な位置をしめていた。そして、現在は市街地となる平戸港周辺に鎌倉時代より居を構えた平戸松浦氏は、松浦党の一氏から勢力を伸ばし、戦国・近世大名となった。その過程では平戸の地政学的重要性もあり、海外交易がおこなわれていた。このことは、平戸オランダ商館の長崎出島への移転による「鎖国」後においても、大名松浦家に強く意識されることになった。

松浦家は幕末まで国替も経験せず明治を迎えたことや、幸いにして大規模な戦火・自然災害に遭遇しなかった平戸の幸運もあり、貴重な文化財が伝来する。ここでは、平戸藩主となった松浦家の歴史と、それに関連する資料について、その概要を紹介する。

## 2. 平戸松浦家の歴史

平安時代末期、嵯峨源氏の子孫を称する松浦一族が松浦地方に土着し武士化して松浦党と称されるようになった。この松浦地方とはおおよそ佐賀県北部から長崎県北部、五島をいう。この地方は多島海であり、地理的環境により松浦党は海と関わる生業(漁業・製塩業・海上交易など)と所領の開発に携わっていた。また、日宋貿易との関係と思われるが、壇の浦合戦では、平氏方の水軍として戦っている。



松浦義肖像画・長崎県指定文化財

平戸松浦氏も松浦党の一氏にすぎず鎌倉時代初期には、平戸島北部とその他にわずかな所領を有する地頭であった。文永・弘安の役においても松浦党の一氏として平戸近隣で戦っている。平戸松浦氏は南北朝初期に南朝方につき他の松浦党と行動を別にしたこともあったが、康永2年(1343)以降は行動をともにしている。

永享年間より、平戸地方でも武力による衝突が発生する。当時の当主松浦義の代から実力で領地を獲得する「押領」が開始されるが、これは豊臣秀吉により九州征伐が行われる天正15年(1587)までの150年余りに続いた。この間、平戸松浦氏は5代にわたり、後の平戸藩領となる長崎県北部(北松浦半島)、壱岐、五島小値賀などを手中におさめた。

松浦義は、その肖像画が残る。これは当時の室町6代将軍、足利義教の花押が添えられた貴重な画像である。松浦義は、義教将軍と個人的な繋がりをもつことに成功した。これは義が中国との公式貿易である遣明船を派遣する免許を与えられたことにも関連すると考えられる。



松浦家家紋入古旗・  
長崎県指定文化財  
以下資料はいずれも松浦史料博物館所蔵

延徳3年(1491)、平戸松浦氏の内紛に乗じて、大村氏、有馬氏等に平戸が襲われた。当主の松浦正は、平戸をのがれ守護大名の大内政弘を頼った。その援助により再び平戸に戻るが、正は大内政弘からの偏緯により松浦弘定となった。以後、平戸松浦氏は大内氏(義興・義隆)より一字を賜わり、松浦興信、隆信(道可)と続く。大内氏という強力な勢力を背景に周辺諸氏との戦いを優位にすすめていった。

松浦隆信(道可)が当主となった天文10年(1541)頃、平戸に後期倭寇の首領である王直が居を構えた。これにより平戸港は発展し、天文19年(1550)にはポルトガル船の入港につながる。ポルトガル船平戸入港を知り、鹿児島にいたフランシスコ・ザビエルが平戸を訪れキリスト教が布教される。平戸において、個別布教の段階ではそこまで問題はなかったが、村ごとの集団改宗がはじまると危機感をもった仏教勢力と、キリスト教信者との間に深刻な対立がおこる。松浦隆信(道可)は、領内安定化のため反キリスト教の立場をとる。ただ、キリシタンを信仰した有力家臣の籠手田氏にたいして、隆信は幼いころ後見になってもらったこともあり、極端な弾圧をおこなうことはできなかった。

松浦隆信(道可)のキリスト教に対する態度に反感をもった宣教師の政策や、ポルトガル人商人殺害事件(1561年)もあり、ポルトガル船は平戸から横瀬、福田、そして長崎港へと入港先をかえていった。この間、松浦氏は、同族で対立していた相の浦松浦氏、ポルトガル船が入港した所領を有していた大村氏、そして東は波多氏と覇権争いを繰り広げた。

豊臣秀吉の九州征伐で、平戸松浦氏はその所領(6万3千石)を認められたが、その後におこる朝鮮出兵の第一陣の小西軍に組織され朝鮮半島へ渡海を命じられた。この時は松浦隆信(道可)の長子、松浦鎮信(法印)が指揮にあたった。文禄元年(1592)から、秀吉が没する慶長3年(1598)まで、厳しい戦いに従事したのである。

関ヶ原の戦いから2年後の慶長7年(1602)、松浦鎮信(法印)の長子、久信が急死する。このため、孫にあたる隆信(宗陽)の後継者として、鎮信(法印)は江戸時代草創期に活動する。慶長5年(1600)、オランダ船デ・リーフデ号が豊後に漂着したが、慶長10年(1605)に鎮信(法印)が朱印船を用いマレー半島のパタニにリーフデ号の生存者を送還した。そしてオランダに対して平戸への来航を促す書簡もあわせて送った。やがてこれは実を結び慶長14年(1609)、オランダ船平戸入港、ただちに平戸オランダ商館の設置とつながった。慶長18年(1613)には、平戸にイギリス商館も設置(1623年閉鎖)され、国際色に彩られた港として繁栄する。

慶長19年(1614)、鎮信(法印)が没して松浦隆信(宗陽)が藩主となる。隆信(宗陽)の母親は、キリシタン大名大村純忠の娘である。そのため隆信(宗陽)の幼少の頃、洗礼を受けた。しかし皮肉なことに隆信(宗陽)は平戸藩領で徹底したキリシタン弾圧をおこなう当事者となっていく。

当時、平戸オランダ商館の取引が順調に推移して、オランダ東インド会社の各地の商館の中で、一番の利益を生むことになる。そして、これは平戸藩経済にとり非常に好都合で、資金の調達先にもなった。

しかし、島原の乱が発生したことにより、ポルトガルとの断交が幕府の目指すところとなり実施された。競争相手が日本から追放されたオランダ東インド会社であったが、これは自らが「国立の監獄」と表現した出島への、平戸オランダ商館移転となってしまった。

島原の乱が発生した年に死去した松浦隆信(宗陽)の跡を、4代藩主松浦鎮信(天祥)が継いだ。オランダ商館の移転にともなう藩財政の立て直しが初期藩政の主要命題となったが、新田開発、突き取り捕鯨、制度改革等により財政再建に目途をつけた。ところで江戸時代の歴代藩主の中で、この松浦鎮信(天祥)は特別の存在となる。また、鎮信(天祥)の後継となった5代藩主松浦棟(雄香)は、父とともに江戸幕府5代将軍徳川綱吉に重用された。棟は外様大名としては異例の幕府寺社奉行となっている。この二人は、その法号(天祥・雄香)のそれぞれ一字をとり「天雄両公」として後世意識され、9代藩主松浦静山には特に憧れの先祖となった。



異国船絵巻オランダ船・長崎県指定文化財



1639年オランダ商館石造倉庫

### 3. 松浦静山のコレクションとその継承

4代藩主鎮信(天祥)は、山鹿素行(1622-1685)と親交深く、素行の子に鎮信(天祥)の娘を嫁がせるなどしている。この縁により素行の孫、山鹿高道は平戸藩家臣となり、江戸浅草にあった山鹿流の学問道場「積徳堂」も平戸城下に移転された。以後、幕末まで山鹿流兵学・儒学の道場として人材を育てるが、嘉永3年(1850)に長州の吉田松陰も山鹿流を学びに訪れている。

9代藩主静山は16歳で藩主となり、20歳で藩校維新館を開校した。静山は「学芸大名」とも称され、歴代平戸藩主の中でも注目されている。その代表作として有名なものが随筆『甲子夜話』(長崎県文化財)である。これは、静山が晩年20年間を費やして書き記したものでその数278巻に及ぶ。

静山が藩校維新館を設立した頃、平戸城内に楽歳堂、江戸藩邸に感恩斎を創設した。これは「考索」を求める静山の気質をもとに、貴重な文物を収蔵した現在の「博物館」的な施設である。なお、感恩斎については、静山が隠居した年の上屋敷焼失時(文化3年)に被災したこともありよくわかっていない。それに対して楽歳堂についてはすべてではないが目録が残り、また、文物も多く現存している。

特に著名なものとしては、オランダ製の地球儀・天球儀などの海外関係資料、蝦夷関係資料、膨大な量の国文学関係の図書類がある。なお、今回展示している『字義的・実践的聖書釈義』・「原城攻囲陣営並城中図」・「宮本武蔵画像」・「松浦信実夫妻画像」も楽歳堂旧蔵資料である。

松浦静山の生きた時代は「博物学の世紀」ともいわれ、当時の様々な階層の人々が趣味と実益をかねる博物学研究にのめりこんだ時代でもある。そして静山は多彩な人物とも交友関係をもった。わずかだが取り上げてみると、大坂の木村兼葭堂、福岡藩校甘棠館の亀井南冥、江戸下谷において5万巻以上の蔵書を有した屋代弘賢、『甲子夜話』の著述をすすめた林述斎、平戸藩校維新館にまねかれて佐久間象山・山田方谷などを門人とした佐藤一斎、長崎のオランダ通詞の本木良永、正確な日本地図を作成した伊能忠敬、水戸藩主の徳川斉昭、等々がいる。これらのネットワークを活用し、情報そして文物の収集に励んだのであった。

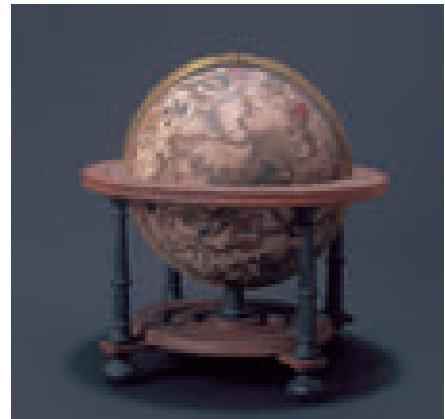
松浦静山は自ら陣頭指揮をとった藩政改革の在位期間より、積極的に貴重な文物の収集に励んでいた。また、4代・5代藩主「天雄両公」同様に、幕政への参加を、その目標としていたのである。しかし、それはかなわず平戸藩江戸上屋敷焼失(文化3年)した47歳の時に突如隠居を決心した。その後を継いだのが10代藩主松浦熙であった。熙は父静山のために隠居料として1万石を提供している。若くして隠居した静山は、ますます、自らの思う幅広い分野に関心を広げていった。

ところで、現在、松浦史料博物館が収蔵している松浦静山及び楽歳堂関係資料であるが、これらの整理・継承については松浦熙の意向が働いている。代表的な例としては、静山の『甲子夜話』がある。現在、伝来している『甲子夜話』は、熙により嘉永5年(1852)に製本されたものである。

松浦静山は16歳で藩主となり、47歳で隠居をした。その間30年余りであるが、最後に平戸に足をふみ入れたのは41歳の時が最後であった。これと対象的なのが、次の藩主熙である。3代藩主隆信(宗陽)は天正19年(1591)に誕生したが、以後は歴代江戸生れであった。



三勇像・右端・松浦静山



楽歳堂旧蔵・オランダファルク天球儀・長崎県指定文化財



松浦熙肖像画

熙は寛政3年(1791)に、静山第3子として平戸城内で誕生したが、実に200年ぶりの平戸生れの藩主となった。これは、熙自身にとって平戸への愛着を生む大きな要因となった。天保12年(1841)に隠居をするが、その隠居生活を平戸でおこなうことを計画し成功する。以後、慶応3年(1867)に没するまでの25年余りにわたり平戸での文化形成に大きく関わることになる。現在、平戸とその周辺に残る江戸時代の史跡等については、その多くが熙の代に整備されている。父静山が書き記した『甲子夜話』には量的に及ばないが、熙自身が書き記した『亀岡随筆』(松浦史料博物館所蔵)という作品がある。ここには、「殿様」らしい熙自身の考え・心情が赤裸々に記されていて非常に興味深い。慶応3年(1867)6月29日、誕生した平戸城内で77歳の人生を終えた。そして、生前に自ら整備した寺院の墓所に葬られた。やがて明治になり平戸藩主の松浦家も大きくその立場が変わるが、それを経験することなく没した熙にとって、幸いだったのかも知れない。

#### 4. おわりに(松浦史料博物館の設立)

明治・大正と松浦家当主は貴族院議員をつとめるが、昭和初期に他の旧大名家と同様、美術品を主とした三度にわたる売立入札をおこなった。また、敗戦後には、松浦静山が入手し現在国宝に指定されている「婦女遊楽図屏風(松浦屏風)」(大和文華館所蔵)が松浦家からはなれた。

これらの状況から、旧平戸藩家臣であった山川端夫氏(外務省外交顧問・国際連盟協会副会長)が中心となり、松浦家当主に進言して博物館創設をおこなう。こうして設立されたのが松浦史料博物館である。山川氏は家族に対して、博物館設立を人生最後の仕事にすること、今つくりないと平戸の歴史についての資料が散逸してしまう恐れを述べていたと伝わる。山川氏をはじめとする関係者の尽力で、昭和30年(1955)に松浦史料博物館が開館した。

昭和初期の売立入札、関東大震災による東京松浦邸の焼失等があったが、幸い平戸においては大災害や太平洋戦争中の大規模な空襲被害もあわずにすんだ。そのため、松浦家関係資料、中でも松浦静山が創設した楽歳堂文庫収蔵の資料が多く現存している。

平成24年(2012)10月1日、「財団法人松浦史料博物館」は「公益財団法人松浦史料博物館」に認定された。「財団法人」とあるように、松浦史料博物館は私立博物館として開館し、今年で開館68年目を迎える。

博物館の展示場は、廃藩置県後の松浦家の私邸として建てられた建物を利用している。現在の博物館施設では特殊な部類にはいると思われるが、所蔵資料においては群を抜いている。平戸そして松浦家に関する多くの文化財が残っているが、これは多くの先人達による後世への思いのあらわれだろう。

平戸にある小さな歴史博物館ではあるが、その存在意義は大きいのである。



松浦史料博物館外観



# 松浦静山と踏絵観

西南学院大学博物館 学芸員  
安高 啓明

## はじめに

平戸はいち早く海外への門戸を開き、積極的に南蛮貿易を展開していた港市である。ポルトガル船の入港、そして誘致はそのあらわれであり、ポルトガル船の撤退後、オランダ・イギリスに切り替えて西洋との交易を維持していった。ところが、幕府による禁教政策を受けるとキリシタン弾圧に転じる。平戸オランダ商館の取り壊しなど、これまでの海外交易により賑わっていた港市平戸は、その姿を一転させることになる。

本稿は平戸藩の禁教政策の実態と踏絵観について、踏絵の借用形態や実施された絵踏から明らかにしていくものである。平戸藩の絵踏の実態については、拙稿「平戸藩の絵踏みと踏絵の写し」(『海を渡ったキリスト教—東西信仰の諸相』、西南学院大学博物館、2010年)で紹介しており、これに寄与するところが大きい。これにあわせて本展覧会で出品している、松浦静山が記した『甲子夜話』や同時期の作成と思われる『絵版之図』からみる平戸藩における踏絵認識についても取り上げていくことにする。

## 1. 絵踏の実態

平戸藩の絵踏は年に二回おこなわれていたようであり、これについて『郡方仕置帳』(松浦史料博物館蔵)には、次のようにある。

御領分中宗門改之儀春夏両度宗門奉行被指廻、踏絵見届紛敷儀無之通相改候様被 仰付候、依而其懸之村々ニおゐて宗門奉行巡廻之時節を考忝人も不出散様可申付候、其節者踏絵之者を一々人別帳に引合人之増減出入等明細に相糺郡代中承届可申達事

領分中(平戸領)で宗門改めは春と夏の二回に分けておこない、これにあたり宗門奉行を派遣し領民の絵踏を見届け、不審なことがないか改めるようにと仰せ付けられている。また、その節は担当の村々において宗門奉行が巡回するときを考えて、一人も外出させず、絵踏した者を一人残らず人別帳と引き合わせ、人の増減や出入りなどを詳細に調べて郡代中まで届けるようにとある。これにより絵踏が宗門改めと同様に、領内の人別確認を兼ねておこなわれていたことがわかる。平戸藩における絵踏は単に宗門改めとしてではなく、行政的手続きを多分に含んでいたのがあった。

絵踏の実施期間などについて「山本甚左衛門聞書」をみると、次のように記されている。

正月より四月中迄七月より十月中迄両度御借被下候様ニと被申候、罷成儀御座候者絵を三四枚程御借被下候ハ、両手二分踏せ申候へハ右之月数にて踏仕廻せ可申候

正月から四月中までの四ヶ月間と、七月から十月の四ヶ月間に絵踏を実施するので、二度貸してくれる様に頼んでいる。また、これにあたり踏絵を三〜四枚貸してくれたならば、二手にわかれて領民に踏ませることができるので、この月数で踏ませてまわることができるとある。つまり、平戸藩は踏絵四枚の借用を所望しているのであるが、それは平戸領内の広さや交通の便とも関係している。

肥前守領分ハ壱岐小値賀と申候而難渡之遠島御座候船之往来も自用ニ難罷成候其外島々も多御座候故例年絵を踏せ申候ニも一年中之内八九ヶ月も隙を取申候間(後略)

肥前守(松浦鎮信)の領分は壱岐、(五島)小値賀をふくみ、渡海することも難儀な遠島さえある。船の往来も自由のままになりがたい状態であり、そのほかの島々も数多くある。そのため、例年絵踏していたが、一年のうち8〜9ヶ月の時間がかかることもある。平戸藩領が壱岐や五島の一部などに及んでいたことから、絵踏に相当の時間と手間を要したことを苦慮した内容が記されている。これを理由として、長崎奉行に対しても長期間の踏絵の借用とできるだけ多い枚数の踏絵を願い出ているのである。

そもそも平戸藩は自藩で踏絵を所持していた藩のひとつであった。「山本甚左衛門覚書」には長崎奉行所から踏絵を借りることになった顛末が記されている。そもそも、平戸藩は「絵板」を四枚所有していて領民に踏ませている

た。数十年にわたって多くの領民に踏ませていたことから「古く罷成候」と言っている。これまでは隣国から借りて代用していたが、長崎から借りて行なった方が「公儀むきも能」(公儀と対して良いことだ)と願ひ出ているのである。

なお、この時、山本甚左衛門は平戸藩宗門改役である三井新左衛門と秋山忠右衛門の二人と、海路で長崎へ向かっている。長崎に到着すると、町年寄の高木作右衛門と面会し、長崎奉行に会う前にいろいろと相談している。踏絵を借りるにあたって、自藩の「古絵」を持参しており、その処分の伺いもたてている。結果的に、長崎の宗門改役と立会いのもと、「切支丹之仏并絵板四枚」、さらには箱を含めて打ち割ったうえで焼き払い、その灰を集めて捨てるといふ徹底ぶりだった。

長崎奉行所の踏絵を借用するために、自藩の踏絵を処分したのであるが、踏絵は別の観点からみれば、キリシタン信仰の対象となり得ることもあった。また、所持することがキリシタン容疑にもつながる可能性があり、跡形もなくして処分されたのである。長崎・平戸の宗門改役が立ち会って処分しなければならないほど、キリシタン関係の文物(「古絵」)は嚴重な取り扱いをしなくてはならなかったことがわかる。

## 2. 松浦静山と踏絵

“蘭癖大名”や“學術大名”とも呼ばれた松浦静山であるが、彼の興味対象は踏絵にも及んでいた。静山が著した『甲子夜話』には、踏絵について自身が見た踏絵と伝聞による記載がみられる。正編『甲子夜話』81冊には次のようにある。

西辺吾ガ領邑ノアタリハ吉利支丹ノ宗法嚴禁ニシテ、鄙賤ノ人ニ於ケルハ絵版ト呼ブ物アリテ、コレヲ踏デカノ宗法ニ帰依セサルヲ顯ハス、因テ今ニ逮ンデハ自ラ賤者ノ一格式トナリ、踏絵以上、以下ヲ以テ等級ヲ分ツニ至レリ〔絵版ハ人々踏ム者ナレバ、俗コレヲ謂テ踏絵ト云〕、サテコノ絵版ト云ハ、崎尹ノ役所ニ蔵ル所ニシテ、年々使者ヲカシコニ遣シ借来テソノ事ニ充ツ、最下賤ノ器、卑シムベキ物ナリ、予嘗領邑ニ在リシ頃、其器ヲ見マホシクテ、竊ニ下司ニ命ジ、牖下ニ携ヘ来ラシメテコレヲ視ル<sup>①</sup>ニ、其体椭圆形ニシテ、長六寸許、横四寸ナルベク、高サ二寸有半ナルベシ、印子金ノ純黄ナルヲ以テ造ル、形容文房ノ飾硯トモ云ベシ、ソノ面縁アリテ、中ニ人物宮室ヲ彫アゲタリ、思フニ耶蘇ノ事跡ナルベシ、一ハ婦人ノ子ヲ抱ク体<sup>②</sup>、一ハ書ヲ講ジ群聴ノ体<sup>③</sup>、一ハ磔罪ノ体ナリ<sup>④</sup>、予ガ視シハ是ノミ

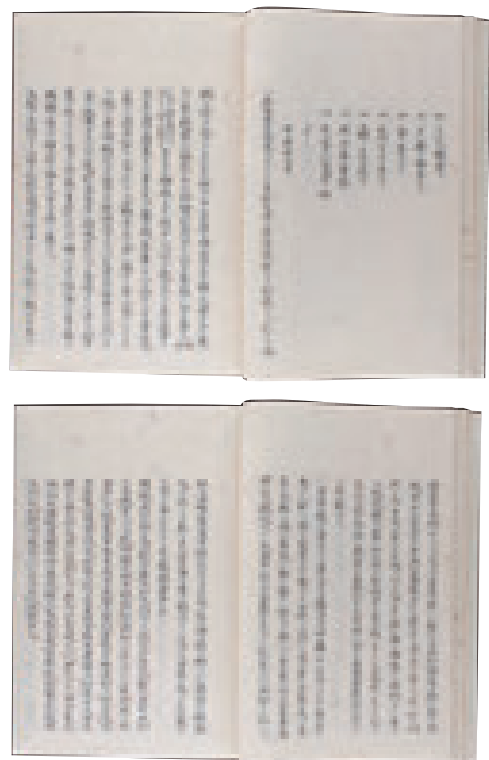
又聞ク、木版アリト、因テ大叔父越州ノ崎尹タリシ後ニ聞ヘバ、越州云、然リ、鎮臺ニ木版ノモノアリ、定メテ古昔ハ無しシ者ナルガ、西邦諸處ニ惜シ出ス間、純金ノモノ不足スレバ、中興以來造シナラン、去ナガラ全ク木ニハ非ラズ、前ノ如ク椭圆形ノ木ノ中央ニ金ノ小方版ヲ以テ容レ、コレニ耶蘇ノ佛像ヲ鑄物ニセシ者ナリ、硯匣ニ硯ヲ置シ如シ<sup>⑤</sup>。但シ皆崎尹ノ自ラ扱フニアラズ、家老ノ司ドル所ト答ヘキ、因テ今件ノ凶等ヲ画列センガ、不祥ノ物ニシテ、且国家嚴禁ノ所ナレバ茲ニ載セズ<sup>⑥</sup>

(下線・読点筆者)

上記のことから静山の踏絵観を見出せるいくつかの要素がある。そこで資料本文にしたがって、いくつか取り上げていきたい。

まず、藩主であった静山であっても簡単に踏絵をみることができなかつたようである。傍線部<sup>①</sup>にあるように「其器」(=踏絵)を見たくて、「竊ニ」(=密かに)家臣に命じて、「牖下」(=脇、袖下)に携帯させて持って来させている。それだけ踏絵は嚴重に管理されていたことをあらわし、恣意的な取り扱いを許されていなかったことがわかる。さらに、傍線部<sup>②</sup>からは、静山が大叔父から聞いた話として、「崎尹」(=長崎奉行)ですら自ら取り扱わず、家老の所轄であることが記されている。そのため、踏絵の図などを描いてはいるものの、「不祥ノ物」かつ国家嚴禁のものとして『甲子夜話』への載録を見送っている。長崎奉行所から踏絵を借用した藩側も慎重に取り扱っており、ましてや隨筆への記載にも遠慮している側面が看取できる。

ここで記載されている踏絵の内容は静山が直接見たもの、ならびに大叔父にあたる「越州ノ崎尹」から聞いたものである。文中に「予ガ視シハ是ノミ」とある踏絵は、静山自身が見たものである。静山がみた踏絵は真鍮踏絵と



『甲子夜話』踏絵箇所

呼ばれるもので、これは下線の二重線からその形状を判断することができる。全て楕円形で、縦18cmくらい、横幅12cm、高さ7.5cmほどと記されている。東京国立博物館で現存する踏絵と比較してみると、真鍮踏絵ロザリオの聖母(東博C-725)は縦18.8cm・横13.6cm・厚2.3であることから、近似値になっている。そして、踏絵の素材は精錬された純金製と記録している。硯のような形をしており、面縁がとられたなかに、人物や宮中が彫られていると指摘している。この図像がキリスト教義に関係するものであろうと静山は認識していることもわかる。

そして静山がみた踏絵は三種類で、下線部③「婦人ノ子ヲ抱ク体」、下線部④「書ヲ講ジ群聴ノ体」、下線部⑤「磔罪ノ体」である。下線部⑤については「十字架上のキリスト」(東博C-1011)であることはいままでのない。下線部③は「ロザリオの聖母」でマリアが幼子イエスを抱いた図が確認できる。また、下線部④については、現存する真鍮踏絵から書物を講じている主題のものはない。真鍮踏絵のなかで「群聴ノ体」のようなものは、「ロザリオの聖母」で幼子キリストを抱くマリアからロザリオを授かるもの、ほか6名が周りを囲んでいるものしかない。とすれば、下線部③と同一のものになってしまうが、静山がみたものは明らかに別々の真鍮踏絵である。

下線部③「婦人ノ子ヲ抱ク体」というのは、おそらく「ピエタ(pieta)」(東博C-720)と思われ、磔刑により死したキリストを抱き嘆き悲しむ聖母を主題とするものと思われる。また、静山はロザリオを授けている場面を、書を講じていると誤解しているため、上記の表現となったのである。

そして十字架からおろされたイエスをマリアの子とみなしており、その亡がらを抱いているのが婦人(マリア)と親子関係にあることを正確に認識している。禁教下においてキリスト教の内容は、ごく一部の役人のみが行き届くところであったと指摘されているが、松浦静山はある程度把握していたことになる。また、静山個人というよりは、松浦家に代々伝わっていたことも推測できる。長崎奉行所には全部で20枚の真鍮踏絵が保管されていたが(現存19枚)、そのうちの「ピエタ」、「十字架上のキリスト」、「ロザリオの聖母」の踏絵を静山は直接見ていたのである。

また、大叔父から聞いた話として、板踏絵の存在にも言及している。下線部⑥によれば、「楕形」の木の中央に金の小型版が埋め込まれ、ここには「耶蘇ノ佛像」が鑄込まれている。その姿は、硯箱に硯を置いているようだったと聞いている。まさに長崎奉行所で管理された板踏絵のことを述べている。「耶蘇ノ佛像」は、前述した表現や現存する板踏絵の種類などから、この板踏絵の図像は「エッケ・ホモ(Ecce Homo)」、もしくは「無原罪の聖母」と思われる。板踏絵は借用されることがなかったため、貴重な情報であった。

このように、静山は簡単ではあるものの、踏絵について記述を残している。これは、平戸藩で借用していた踏絵に基づくものであることから、平戸藩の踏絵借用の実態も示しているのである。平戸藩でも長崎奉行所から真鍮踏絵を借用し、かつ、板踏絵の存在も認識していた。しかし、図版で書き記すことを止めたり、一定の配慮を示しながら『甲子夜話』は作成されていたことがわかる。

### 3. 踏絵の写し

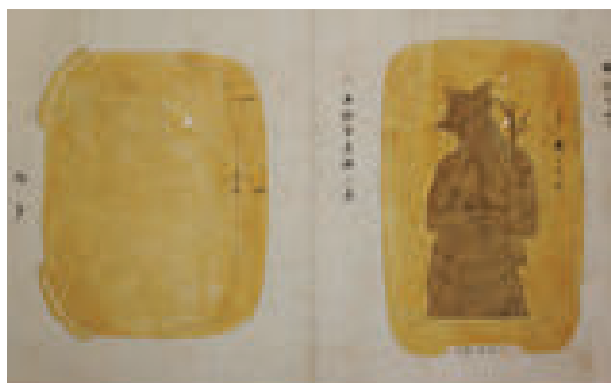
静山が『甲子夜話』で踏絵の図版の掲載を見合わせていたものの、平戸藩ではその写しを作成している。『甲子夜話』の一節に「図等ヲ画列センガ」とあったが、これは平戸藩御用絵師である片山尚栄描いた『絵版之図』の可能性が高い。ここには掲載順に「エッケ・ホモ」、「ロザリオの聖母」、「十字架上のキリスト」、「ピエタ」が収められており、長崎奉行所で保管される全ての真鍮踏絵を網羅している。平戸藩は全ての図像の踏絵を借用していたことをあらわしている。

但し、平戸藩は一年ですべてを借りたものではなく、数年にわたり違う図像の踏絵を借用しており、これについては次のように記されている。

当年之絵板之内壹枚模様先年写取指上候図と相替居候ニ付、別紙写取差上申候、尤金色并格好寸尺等ハ先年指上候図と相違無御座候、以上

今年の絵板のうち一枚は、以前写し取って差上げた図と変わっていたので、別に写してこれを差上げます。金色であることや格好、寸法などは以前に差上げた図と相違ありませんと述べている。この時に写し取った絵がピエタであり、毎年、踏絵の図柄を確認していた様子がわかる。また、資料中に「指上」とあるように、御用絵師片山尚栄は依頼されて写しを作成している。前述したように松浦静山であっても秘密裏に踏絵をみなくてはならない管理体制下のなかで写しを作成できたのは、平戸藩当局の指示があったことにほかならない。

平戸藩にとって、「絵版之図」の作成はアーカイブの意味合いがあったものとも思われる。長崎奉行所から貸し



出される真鍮踏絵四種を取録し、先にあげたように複数年にわたって踏絵図像を調査している。そしてこれは細部にもわたっており、同資料に収められる次の文言により確認することができる。

此図二枚之内壺枚先年写指上候図と同様ニ御座候得共少々違候処も有之、且縁ニ丸形模様も無之候ニ付写取申候、尤裏之図寸尺金色等ハ先年写指上候図ニ少シも相違不仕候、以上

これからわかるように、図像としては同じであるものの、縁に「丸形模様」がないことから、今回改めて写し取っている。この図像は「ロザリオの聖母」であり、現存する「ロザリオの聖母」の踏絵にも、ここで指摘されているような周囲に「丸形模様」があるものと、これが無いものの二種類が確認できる。「丸形模様」がロザリオであることを片山尚栄は認識していないものの、前年に写し取った踏絵との違いをみつけて新たな踏絵として、「絵版之写」に収めたのである。なお、踏絵の色や寸法などは少しも違いがないとして省略している。本紙部分にも反映されており、「此図惣金色寸同」とロザリオの聖母の踏絵の上に記されている。

この資料の特徴は、寸法など詳細なスケッチに及んでいることである。画中には寸法が記され、例えば「エッケ・ホモ」の描写にあたり、本体の法量に「竪六寸二分 横四寸五分」(竪18.78cm×横13.62cm)、下方の脚間「一寸九分」(5.73cm)、左側面部の脚間「三寸」(9.09cm)、高さ「八分」(2.4cm)とある。これを現存する「エッケ・ホモ」(東博C-1008)には「長18.9×幅13.6×高3.2\_脚高0.9」とあり、近似値となっていることがわかる。『甲子夜話』よりも具体的かつ正確な描写を片山尚栄はしていたことがわかる。

『絵版之図』には「感恩齋蔵」の字や感恩齋の落款がある。感恩齋とは松浦静山の別号であることから、静山の指示に従って片山尚栄が踏絵の描写をしたものと思われる。推測の域をでないが、時期的なことから考えて、静山は踏絵の図は自藩が所蔵する『絵版之図』に委ねて、『甲子夜話』にはその詳細をあえて載録しなかったことも考えられる。

## おわりに

松浦静山が『甲子夜話』で記した踏絵と、『絵版之図』に描かれた踏絵では多くの共通点がみられる。踏絵の管理が厳重だったのは、『甲子夜話』にも示されていた通りだが、踏絵が“学芸大名”松浦静山の興味対象になっていたことは間違いない。単に宗門改のときの道具という認識よりは、研究の対象ともなっていたのであろう。山本甚左衛門らが踏絵を借用するために、長崎奉行所でやり取りしていた一連の政治的配慮や概念は形骸化していたといわざるをえない。長崎奉行所から踏絵を借用するということが、公儀に対する禁教遵守をあらわすとともに、厳重な管理下に置かれたことが、かえって興味対象にかわったものと思われる。

こうした動きは、松浦静山の動きをみてもわかるように、絵踏そのものが一定の役割を終えたということができる。絵踏が年中行事化したことは、長崎をはじめ、天草でも同じような傾向にあったが、形式的な絵踏は、キリシタンの穿鑿という緊迫した手法というよりも儀礼化してしまった実状がある。そして、松浦静山が学芸対象として踏絵をとらえていたのもその一端に過ぎないのである。

幕府の禁教政策の骨子でもある絵踏は、九州諸藩においては幕府に従順姿勢を示すための一種の“作法”であり、踏絵の借用はその最たるものと認識されていた。それが江戸時代後期にもなるとその本義も形式的なものとなり、その結果、踏絵に対する認識も変容したのであった。

## ■九州のキリスト教シリーズⅣ「平戸松浦家の名宝と禁教政策」出品目録一覧

番号	資料名	年代等	数量	所蔵先	備考
<b>I. 大航海時代と港市平戸</b>					
1	ポルトガル船模型	—	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
2	八幡船船幟	16世紀	1	公益財団法人 松浦史料博物館	長崎県指定有形文化財
3	松浦隆信(道可)肖像	江戸時代	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
4	平戸図(写)	1621年	1	平戸市教育委員会	
5	松東院・正宗院・清浄院肖像	1653年	1 (3幅対)	公益財団法人 松浦史料博物館	長崎県指定有形文化財
<b>II. 松浦家の名宝と異国趣味</b>					
6	受胎告知図柄 菓子鉢	17世紀	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
7	オランダ焼西瓜皿	江戸時代	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
8	伊良保茶碗	江戸時代前期	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
9	資始具足	江戸時代前期	1	公益財団法人 松浦史料博物館	長崎県指定有形文化財
10	源氏物語絵図屏風	江戸時代前期	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
11	青貝地三星紋鞍	江戸時代	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
12	三星梶葉入糸巻太刀拵	江戸時代	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
13	青貝地梶葉紋馬柄杓	江戸時代後期	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
14	梶葉紋散菊唐草蒔絵十二手箱	江戸時代	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
15	木琴	江戸時代	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
16	蛭蝶譜	江戸時代	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
17	子孫永宝印	江戸時代	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
18	『字義的・実践的聖書釈義・Ⅰ創世記』	1741年	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
	『字義的・実践的聖書釈義・Ⅱ創世記』	1743年	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
19	『字義的・実践的聖書釈義・Ⅲ出エジプト記上』	1746年	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
	『字義的・実践的聖書釈義・Ⅳ出エジプト記下』	1748年	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
20	甲子夜話	1821～1841年	1	公益財団法人 松浦史料博物館	長崎県指定有形文化財
<b>III. 禁教とその展開</b>					
21	キリシタン禁制定書	1587(天正15)年	1	公益財団法人 松浦史料博物館	長崎県指定有形文化財
22	じゃがたら文	1655(寛文5)年	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
23	奉書(元和7年覚)		1	公益財団法人 松浦史料博物館	
24	奉書(寛永18年8月14日)	1641年	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
25	原城攻囲陣営並城中図	江戸時代	1	公益財団法人 松浦史料博物館	長崎県指定有形文化財
26	宮本武蔵像	1827(文政10)年	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
27	絵版之図	1830年	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
28	類族改定格	1789年	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
29	敬考述事	江戸時代	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
30	長崎裁判所より浦上切支丹取締りの件	1868年	1	公益財団法人 松浦史料博物館	
<b>IV. 平戸の海外交流</b>					
31	モンタヌス著『日本誌』(参考)		—	—	
32	平戸オランダ商館跡遺物-中国陶磁器-	16～17世紀	6	平戸市教育委員会	
33	平戸オランダ商館跡遺物-ガラス製品-	16～17世紀	3	平戸市教育委員会	
34	平戸オランダ商館跡遺物-瓦とレンガ-	16～17世紀	3	平戸市教育委員会	

西南学院大学博物館2013年度春季特別展  
九州のキリスト教シリーズⅣ

---

## 平戸松浦家の名宝と禁教政策

—投影された大航海時代とその果てに—

---

編 集 安高啓明  
英文翻訳 中松沙織 内島美奈子  
中文翻訳 方圓  
編集補助 貞清世里 内島美奈子 謝婧 方圓  
山尾綾香 吉松由希 下園知弥 出口智佳子  
発 行 西南学院大学博物館  
〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号  
TEL 092-823-4785  
発 行 日 2013(平成25)年6月8日  
印 刷 株式会社 インテックス福岡



一粒の麦から、  
次の100年に向かって  
100  
Thanks and Next!



**西南学院大学博物館**  
西南学院大学 SWINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM  
[www.seinan-gu.ac.jp/museum/](http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/)